

2016年 グアム社員旅行

株式会社第一コンサルタンツ 右城 猛

1日目 5月19日(木) 高知からグアムへ

今年の社員旅行は、社員の希望でグアムに決まった。グアムは2000年に社員旅行、2012年に家族旅行をしており3度目になる。

第1班は社員34名と添乗員1名。最近は仕事に追われて疲労が蓄積していた。気分転換による疲労回復も期待して、家内同伴で参加した。



高知龍馬空港 11:35 分発 ANA1606 便で伊丹空港へ。リムジンバスで関西空港へ移動。19:00 発のデルタ航空 DL473 便でグアムへ。

旅行の行程を見ると、往路は関西空港で、復路は伊丹空港で搭乗までそれぞれ約4時間の待ち時間があった。時間を有効に活用するため、いつもの出張と同じようにパソコンを持参した。



宿泊したホテルはグアムプラザホテル。グアムではランクが低いが、繁華街の中心にありショッピングに便利なロケーションにある。JP ストアとホテルのロビーが繋がっており、DFS 免税店は目と鼻の先にある。

ただし、館内で Wi-Fi が無料で使える環境になっていない。また、日本人が多いホテルにも関わらずトイレはウォッシュレットになっていない。今時のホテルとしては珍しい。

2日目 5月20日(金) グアム観光その1



グアムプラザホテル7階の2701号室から眺めたタモン湾。茶色い建物は2012年に宿泊したアウトリガーグアムリゾート。その左手にはデュシタニ、ハイアットリージェンシー、ホリデイのリゾートホテルが見える。写真には写っていないが、アウトリガーの右側には2000年の社員旅行で泊まったリーフホテルがある。



最初の観光地はハガニア地区にあるアプガン砦。スペイン統治時代にスペイン軍がチャムロ族と戦うために作られたもの。



ハガニア地区のスペイン広場の裏にあるラッテストーン公園。ラッテストーンは、建物の基礎として珊瑚石で作られたもの。



公園にはダオの実がたくさん落ちていた。マカダミアナッツによく似ている。ガイドの説明では、食べると体が痺れるそうだ。魚を捕るのに使われているとのこと。



赤と白のブーゲンビリア。



スペイン広場に展示された砲台。



1個5ドルでココナツを売っていた。空けられた穴にストローを刺して吸うと、スポーツドリンクのような味のジュースが出てくる。渴いた喉には最高である。

ジュースを飲んだ後、ココナツの肉の部分の削いで醤油を付けて食べた。まるでマグロの刺身。日本酒の肴に最高だろう。



背後は聖母マリア大聖堂(ハガニア大聖堂バシリカ)。マリア像の髪の毛が今でも伸びているとか。



スペイン統治時代の野外音楽堂「キオスコ」。



博物館の前に展示されている二人乗りの日本軍の潜水艦。



1944年7月21日の朝、グアムを占拠していた日本軍を攻めるためアメリカ軍が上陸を開始したアサン海岸。

その海岸の太平洋戦争公園にはアメリカ軍の魚雷が展示されていた。



カタカナで書かれた国語の教科書。「ヤマモトサン ホンオ オアケクダサイ。ヤマモトサンガホンオアケマシタ。」「アナタワ ホンオ ヨミマシタカ。イーエ エオ ミマシタ。」と書かれている。

助詞に「オ」「ワ」が使われている。



太平洋戦争博物館。アメリカ軍のアサン上陸作戦によってグアムの日本軍を制圧した記録映画の上映や、当時の資料が展示されている。



恋人岬からの展望。背後はタモン湾。



タモンビーチ。背後の白い建物はホテルニッコーグアム。

2012年9月には、ビーチは海水浴客で溢れていたが、海水浴客の姿がなくひっそりとしていた。

以前には真っ黒い大きなナマコをたくさ見かけたが、水質が悪くなったのが原因でナマコが減っているようだ。

観光客には多く来て欲しいが、多く来れば海が汚れる。困った現象である。



グアム2日目の夜は、全員でフィッシュアイ・ポリネシアンディナーショーを楽しんだ。

タラバガニ、牛肉のステーキ、ムール貝などの料理をビュッフェ形式で食べながらポリネシア

ンショーを楽しんだ。

ここに来るのは3回目。来るたびに踊りが進化している。若い女性が腰を激しく振って踊るポリネシアダンス、火がついた棒を器用に操って踊るファイヤーダンスは見事である。

タモンビーチや繁華街には観光客が少ない。ここもガラガラと思いきや、会場は満席であった。このショーは地元グアムの新聞でNo.1に選ばれている。それだけに人気が高いのだろう。

3日目 5月21日(土) グアム観光その2

3日目はホテルを8時に出発。オプションツアー「YAMAS グルーっと一周」に参加した。



最初の観光地は、昨日の最後に見学したフィッシュアイマリンパーク海中展望塔。ここは日本の造船技術によって建造されたものである。



展望塔の窓の外でたくさん泳いでいるカラフルな熱帯魚を見ることができた。



餌付けをしているので、展望塔の周囲には熱帯魚がたくさん集まっていた。



海中展望塔に通じる栈橋の下では、ダイビング、シュノーケリング、シーウォークなどのマリンスポーツを楽しむ観光客がいた。



太平洋戦争跡公園「ガン・ポイント」。日本が統治していたグアムへ1944年7月21にアメリカ軍が上陸したポイントの1つ。

海に向かって備え付けた日本軍の砲台が残されていた。



グアムにはどこへ行ってもマンゴーの木がある。パブリックエリアであれば、誰でも自由にマンゴーを採っても良いので、現地の人にしてみれば市場で金を出してまで買う気はしないだろう。ただし、マンゴーの木が高いので採るのは大変である。

ガイドが長い棒で叩いてマンゴーの実を落としてくれた。



椰子の木もたくさん生えている。青と黄色のココナツかあるが、味は黄色い種類が良いようである。



セッティ湾展望台からの眺望。



タロフォフォの滝。ここにはケーブルカーで降りて行く。



密林はバナナの木や椰子の木がたくさん覆い茂っている。



横井庄一さんは、椰子の皮の繊維で洋服を作り、バナナやココナツを食べて 28 年間過ごしたようである。

ソレダッド砦に向かう途中で見かけた橋梁と水牛。この近くにマゼラン記念碑、F・Q サンチェス小学校がある。



この先に横井さんが隠れていた洞穴がある。



ソレダッド砦。背後はウマタック湾。



洞穴の入口。実際にはこの場所ではなく、これは再現した洞穴。2000年に来たときは梯子を伝って中に入り蚊に刺された。今は入れないように柵が設けられていた。



横井さんが洞穴で潜伏していた様子。



タロフォフォの滝の近くには「グアム歴史館」があり、歴史を分かり易くするために絵画にして展示されていた。

スペインの植民地になる前のグアム。原住民であるチャモロ人が狩猟をしながら暮らしていた。



1565年にスペインの植民地になり、キリスト教の宣教師がチャモロ人の伝統的な習慣や文化を厳しく禁止したため、1669年にスペイン・チャモロ戦争が起き、10万人いたチャモロ人が5000人に激減した。



1898年、米西戦争でアメリカがスペインに勝利し、パリ条約によりグアム島はフィリピンなどと共にアメリカ合衆国に割譲された。



1941年12月に太平洋戦争が勃発。日本海軍は真珠湾攻撃の5時間後にグアムへの航空攻撃を開始して占領。以後、日本統治が始められた。

スペイン統治時代と日本統治時代には、チャモロ人を奴隷としてこき使っている様子が描かれ、1944年8月に再びアメリカの統治になって平和

な生活を取り戻したということが描かれている。

「歴史はそのときの為政者によって決められる」ということを改めて知らされた。



日本人の南太平洋戦没慰霊記念公園。入り口に釈迦を本尊とした「我無山平和寺」があり、戦争の遺品や修学旅行の生徒によるたくさんの千羽鶴が陳列されていた。



公園内にスターフルーツの木があり、熟れかかった実をたくさん付けていた。実の断面が星の形をしているので、スターフルーツと呼ばれている。



ガイドが木によじ登ってスターフルーツを採ってくれた。



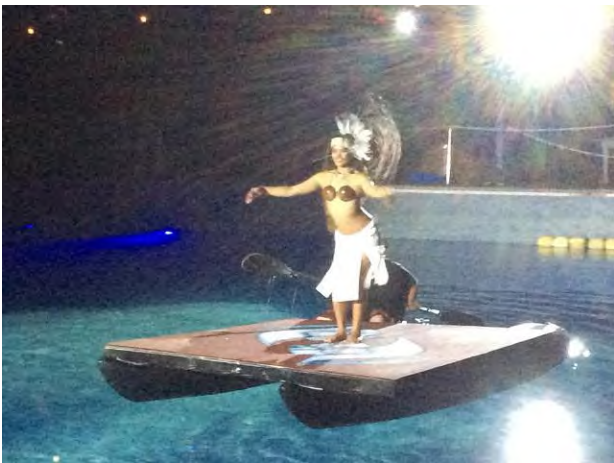
とてもジューシー。さっぱり味で美味しい。



グアム最後の夜は、オンワード ビーチ リゾートで BBQ を食べながらポリネシアンショーを楽しんだ。

ステージのバンド演奏者が突然私の名前を呼び、係の者が 66 の数字が入ったバースデーケーキを私の席に届けてくれた。

日本旅行の添乗員の加田氏の粋な計らいで、一日早い私の誕生日を会場の皆で祝っていただいた。このサプライズは嬉しかった。



腰を激しく振って踊るポリネシアダンスを楽しんだ。

4日目 5月22(日) グアムから高知へ

朝6時にホテルを出発してグアム空港へ。9:00発 DL172 便で関西空港へ。行き帰りとも機内は冷房が効きすぎており、貸与される毛布だけでは寒かった。セーターなどを準備すべきだった。

関空着は 11:55。12:20 発のリムジンバスに乗ると、伊丹空港へ 13:20 に到着した。私たちが乗る高知行きの ANA1615 便は 17:55 発である。

4 時間半も待ち時間があつたので、南ターミナル 2 階の国内線出発口にあるダイヤモンドサービスメンバー向けラウンジ「ANA SUITE LOUNGE」で時間を過ごした。

昨年の 11 月にオープンしたようである。羽田のラウンジは狭くて混雑しているが、ここはきれいでゆったりしていた。

18:30 予定より 10 分早く高知空港に到着。全員無事に帰ってきた。

あとがき

社員旅行で海外に行くと必ずトラブルがある。2013 年に台湾へ行ったときは、烏山頭ダムへ行く途中で社員 1 人がはぐれた。

今回は最後の夜に食事会場へ行く送迎バスに 2 人の社員が乗り遅れた。送迎バスに乗るのは我が社の社員だけではないので待ってくれない。今回の旅行の世話役を務めてくれた親睦会副会長の兵頭君を残して会場へ向かった。

ところが送迎バスが途中でエンジントラブルを起こし、危うくポリネシアショーが見られなくなるところだった。

会場に着くと、兵頭君たちがタクシーで既に到着しており、ホッとした。

旅行でのトラブルは避けたいものであるが、思い出として強く残るのはトラブルである。失敗経験をすることで知恵や度胸が身につく。トラブルを経験するのも悪くはない。

外国のホテルに泊まって感じることは、水回りの悪さである。今回のホテルも私の部屋だけでなく湯の出が悪かったようである。バスタブに湯を溜めるのに時間がかかった。熱い湯も出なかった。

往生したことは、部屋の上の階で改装工事をしていたことである。早めにホテルに帰って一休みしようにも工事の音がうるさくてゆっくりできなかった。

日本旅行高知支店課長代理の加田利弘氏には、添乗員として出発から帰るまで終始細かいところまで気を配っていただいた。

親睦会には社員の意見のとりまとめや旅行会社との連絡係などを務めていただいた。

参加した 34 名のメンバーは、第一コンサルタントの一員として規律と品格のある行動をとってくれた。

お陰様で全員が事故なく旅を楽しみ、お互いの絆を深めることができた。

皆様に心より感謝申し上げます。

1. はじめに
グアムは米国の準州である。至る所に星条旗がたなびいていた。しかし、銃社会の国とは思えないほど、のんびりとした時間が流れていた。
2. 米国の事情
二日目の現地ガイドだった日系二世の「洋子」さんが、グアム島民は大統領の選挙権がないと説明した。しかし国籍は米国なのでグアムを出て本国に渡る若者が実に多いとのことだった。アメリカンドリームは健在のようである。
3. イメージ
新婚旅行の定番。旅行2日目の金曜日にもスペイン広場にてウェディングドレスを着た花嫁が新郎と嬉しそうに並んでいる光景を目にしたが、観光地であるが故に、アジア人が多く、異国情緒はなく、少し残念に思った。
4. 珊瑚の舗装
グアムでは道路舗装の材料に珊瑚を使っているとのことだった。珊瑚は雨に濡れると、途端に路面が滑るらしい。**Squall**のあるこの島では平日は走行状スリップ等が発生しやすい自転車やバイクを見かけない。しかし土曜日は、朝早くからサイクリンググループが列になって走っていた。ガードレールの上に自転車が飾られていたが、交通事故死した軍人のものだという。グアムでは金曜日の夜、遅くまで酒を飲み、自転車で朝帰りする若者が多く、土曜の朝は自動車の運転時には注意が必要とのことだった。珊瑚を使うことに関して、住民から苦情が無いことに違和感があった。日本ではあり得ないことである。
5. 戦後70年
旅行先が決まったとき、思ったことがあった。それはこの島は第二次世界大戦の戦場で、沢山の命が散った場所だということだ。オプションではその場所に手を合わせに行こうと決めていた。ガイドによると、2万人の日本兵が駐屯していたが、捕虜となったのは2千人。遺骨があった者は7百人。未だに、1万7千人余の戦死者が供養されずにいるのである。敗戦後すぐ米軍が基地を造ったのも原因の一つで、探せないエリアが残っている。なにせ島の1/3は米軍基地だというのだから。米軍が上陸した場所に立ち、海を眺めたが、戦闘の状況は想像もつかない。ただ、近くに行くと機関銃の弾痕が蜂の巣のように残っていた。戦後70年の節目に訪れることができ良かったが、凄まじい戦争の痕は未だに残っている。
6. 終わりに
台湾に次いで、グアムでも古き日本を知ることができた旅であった。ただ、グアムは街が汚くなっているとリピーターの方が言っていた。観光地として発展していくためには、矛盾するかもしれないが、秩序を厳しくしなければ、街は衰退してしまうのではと危惧して止まない。ガイドの話では平均気温も低くなっているとのこと。地球の悲鳴は此処でも聞くことが出来るのである。

社員旅行 (in グアム)

総務課 山本裕子

【はじめに】

5月19日(木)から5月22日(日)まで社員旅行に第1班でグアムに行って来ました。



社員の投票で行き先がグアムに決まった。と聞いた時は、海とショッピングしかない所だと思っていたが、現地に行ってみると楽しくて、もう一日欲しいと思いました。

【1日目】

旅行の日程は3泊4日、高知龍馬空港に10時30分集合。右城社長から「全員が無事に4日後ここに帰ってきましょう」という挨拶がありました。

グアムへは直通便がないため伊丹空港経由の関西空港発となり、1日目は移動のみで終わりました。



【2日目】

全員で観光。朝から快晴。水分補給が欠かせないぐらい暑かったです。

パセオ公園、太平洋戦争博物館、アップガン砦・ラッテストーン公園と巡りました。



この旅行で一番楽しみにしていた夕食のフィッシュアイポリネシアンディナーショーでは、動画の撮影に気をとられカメラのメモリー容量がなくなるという始末でした。ガイド本の紹介によるグアムで一番人気のショーだけあり迫力満点でした。再びグアムに行く機会があれば必ず行きたい場所の一つになりました。



【3日目】

夕食の集合時間18時10分まで自由行動だったため、私は全身指圧やショッピングをしたりと有意義に過ごしました。全身指圧は無料送迎がある店をガイド本で探し日本旅行の加田さんに無理を言って当日予約を入れてもらいました。強行にも関わらず加田さんには優しく対応して頂きました。ありがとうございました。

3日目の夕食はオンワードBBQ&ポリネシアンショー。ショーの合間で右城社長へ

のサプライズ企画がありました。

この日の夕食はバーベキューだったため煙がもの凄いく、焼いている食材を焦がしてしまう場面も多々ありましたが、ショーを鑑賞しながら美味しく頂きました。



【4日目】

楽しかった社員旅行もついに最終日。

ホテルを6時10分に出発し高知へと帰路につく。1日目と同じように移動で一日が終わりましたが全員が無事に高知龍馬空港帰ってくる事が出来ました。

右城社長、社員旅行に参加させて頂きありがとうございました。

また来年もよろしくお願ひします。

社員旅行2016 in GUAM

営業部営業課 堀田朋男

【まえがき】

5月19日～22日の4日間、第一コンサルタンツ入社後初の社員旅行でグアムに行ってきた。

グアムには4年前に家族旅行で1度訪れているので、今回は訪れていない場所を観光すること、できるだけ英語を話すことを目標とした。

【1日目】

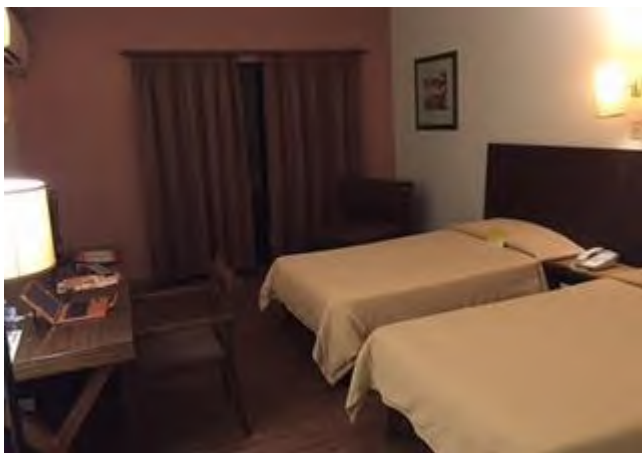
高知龍馬空港 → 伊丹空港 → 関西国際空港
→ グアム国際空港 → GUAM Plaza Hotel

高知龍馬空港から順調に移動を繰り返し、予定通りの旅程でグアムへ到着した。

入国審査も順調に済み、トラブルもなく初日を終わることができた。



高知龍馬空港にて 右城社長の挨拶



現地時間24時30分 翌日に備え就寝

【2日目】

ホテル → アプガン砦 → ラッテストーン公園
→ スペイン広場 → アサン海岸 →
→ 昼食 (Leaf Hotel ブッフェランチ)
→ フィツシュアイマリンパーク
→ フィッシュアイポリネシアンディナーショー

ホテルロビーに8時40分に集合し、観光へ。



左ハンドルなのでバスの入り口は右側にある

最初の目的地はアプガン砦。正式名称は「Fort Santa Agueda」で、1971年にチャモロ軍に備えてスペイン軍が建てた砦である。



砲身を覗くと弾丸ではなくゴミが入っていた

ラッテストーン公園へ移動し、その後徒歩でスペイン広場へ移動した。ラッテストーンは、チャモロ族の伝説では巨人タオタオモナの墓とされている。



上部の石は「タサ」、石柱は「ハリギ」という



公園内に旧日本軍が掘った防空壕が残っている

続いてスペイン広場へ。スペイン広場はスペイン総提督邸のあった地で、一帯にはスペイン支配下時代の建築物など史跡が多く残っている。この一角には、グアムで最も格式高いハガニア大聖堂がある。グアムは島民の8割以上がカトリック教徒である。内部へは1ドルの寄付をすることで拝観できる。



ハガニア大聖堂外観



寄付が必要なため、観光客はあまりいない

次に、アサン海岸、太平洋戦争博物館と、二次世界大戦に縁のある場所を訪れた。アサン海岸は1944年7月21日にアメリカ軍が上陸した地点である。太平洋戦争におけるグアムでの戦いは、日米合わせて2万5千名以上の死者を出した。このような悲惨な戦争をしてはいけないと強く感じた。



アサン海岸に展示されている魚雷（レプリカ）



太平洋戦争博物館外観

グアムの観光の定番、恋人岬は許されざる恋をした男女が身を投じたと言われる伝説のある岬である。静岡県伊豆半島にある恋人岬から鐘を寄贈されたそうである。静岡に以前住んでいたが、残念ながら伊豆の恋人岬は未訪問である。



写真右に見えるのが伊豆半島恋人岬寄贈の鐘

解散後、ディナーまでの時間で市街を散策することにした。英語での会話を試みるも相手が先に流暢な日本語で話してしまうため、こちらも流暢な日本語で返してしまった。



グアムに数店舗あるABCストアは、どの店舗でも完璧な日本語が返ってくる

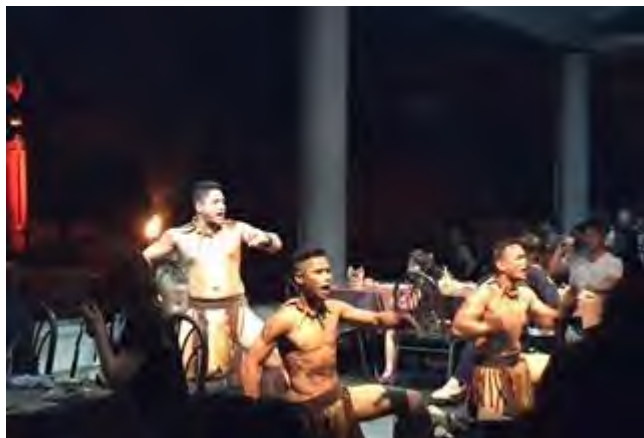


5箱購入のクッキー



定番マカダミアナッツ

夕食はポリネシアンディナーショー。以前グアムを訪れた時よりもキャストの演技が上手くなっているように感じた。



ステージから降りてのパフォーマンス



随所にファイヤー・パフォーマンス

【3日目】

オプションツアー「グルーっと一周」
 ホテル→フィッシュアイマリンパーク
 →ガーン・ポイント→セッティ湾展望台
 →ソレダッド砦→タロフォフォの滝
 →南太平洋戦没者慰霊記念公園→恋人岬
 →ホテル着→オンワードビーチリゾート

8時10分にホテルからFordのバンで出発した。ガイドは奥様が日本人のチャモル人リチャードさん。日本語が堪能であった。冗談を交えつつ説明をしてもらえたため、飽きることなく過ごすことができた。

最初はフィッシュアイマリンパークへ再訪。
明るい時間のため、遠くまで見通せた。



ダイバーの餌を追いかける魚たち

ガンポイントには日本軍とアメリカ軍が大激戦となった地である。椰子の木が並び、マンゴーも数多く実っているのが印象的であった。ガイドがマンゴーを器用に取ってくれた。グアムではパブリックエリアなら木の実、花などを自由に取ってよいとのことである。



取れたてのマンゴー



ガンポイントには砲台が並んでいる

このツアー少人数のため融通がきく。ソレダッド砦に行く途中、セッティ湾展望台や、途中に興味のある風景があればその都度停まって観光ができた。



セッティ湾展望台からは遠くにはココス島が見える
次回訪れた際は行ってみたい



南部地区の公園 昼時なので子どもがいない



水牛



ガイド曰く、クマ岩

ソレダッド砦はウマタック村や交易船を海賊から守るために築かれ、ウマタック湾はマゼランが上陸したポイントである。スペイン統治時代の砲台や弾薬庫跡などが残されている。



砲台が3台並んでいる



背後にはウマタック湾

タロフォフォの滝には、横井庄一さんが28年もの間潜伏していたジャングルにある、洞穴のレプリカが作られている。横井さんは椰子の繊維で服を作ったが、1着作るのに3年もかかったそうである。



タロフォフォの滝
入り口からロープウェーで200mほど下る



28年ものジャングル生活は想像を絶する

昼食後に訪れた、グアム平和慰霊公苑はジーゴにある、日本守備軍小畑中小軍司令官玉砕の地である。毎年多くの子どもが訪れ、寄せ書きや千羽鶴が平和祈りの家に所狭しと飾られているのが印象的である。



平和への祈りが感じられる、崇高な像である



苑内の至る所にスターフルーツ、パンの実など、グアムの様々な果物が実っており、取り放題！



恋人岬のTWO LOVES POINTに一人佇む

グアム最後のディナーはオンワードビーチリゾートでポリネシアンショーを楽しみながらのBBQであった。バスにてホテルへ移動する途中、トラブルで別のバスに乗り換えるというハプニングが起きたが、無事ショーには間に合った。



BBQ食べ放題



洗練されたポリネシアンショー

【4日目】

GUAM Plaza Hotel → グアム国際空港

→ 関西国際空港 → 伊丹空港

→ 高知龍馬空港 → 自宅

ホテルロビーに5時55分集合し、お世話になったホテルをあとにした。

グアム国際空港で最後の英語チャレンジ、ハンバーガーを頼むというミッションも、メニュー写真の指さしおよび「コーク・ズィーロー（コカコーラゼロのこと）」、ほとんど英語を使わずに終わった。英語は次回の海外旅行で改めて挑戦することを誓いグアムに別れを告げた。



指さしで購入した朝食。13ドル50セント

【あしがき】

第一コンサルタンツの社員が非常に仲がよく、よい雰囲気であることを感じられた社員旅行であった。まだ何も社業に貢献していないため心苦しい思いもあったが、今回の旅行に参加させていただいたことに感謝し、明日からの仕事を精一杯頑張ります。

社員旅行レポート

営業部営業課 佐藤 香奈子

5月19日～22日の3泊4日でグアムへの社員旅行に参加した。

【5月19日（1日目）】

高知龍馬空港 11:35 発の便でまずは伊丹空港へ。そこからリムジンバスで関西国際空港まで移動し、19:00 グアムに向け出発。グアムに降り立ったのは23時過ぎ。

【5月20日（2日目）】

2日目はグアム観光。最初はアプガン砦へ。高台にあり、眺めがとても良かった。次はラッテストーン公園。ラッテストーンとはサンゴ石でできた石柱郡で、建物の土台として作られたものらしい。



ラッテストーン

ラッテストーン公園の向かいにはスペイン広場があり、広場の隣にハガニア大聖堂バシリカがある。教会の中から見ただけでステンドグラスはとても綺麗だった。ココナッツを売っている露店があったが、時間が無く食せなかったのが残念。



教会内のステンドグラス

そして、とても広い太平洋戦争国立歴史公園の一角に展示されているアメリカ軍の魚雷を見学し、太平洋戦争博物館へ。グアム戦に関する記録映画の上映、戦闘経過などの資料が展示されていた。

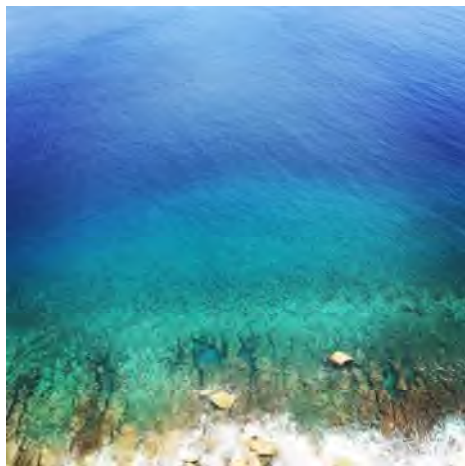


アメリカ軍の魚雷



入口の横には日本軍の特殊潜航艇が

観光の最後は恋人岬。こちらの眺めも最高！水平線と海のブルーのグラデーションがとても綺麗で感動した。



恋人岬展望台の真下

昼食後は夕食までフリータイムということで、K マートというスーパーにバスに乗って買い物へ。マカダミアナッツなどのお土産を買い込む。

夕食はビュッフェ形式のディナーにポリネシアンショー。迫力があり見応えのあるショーだった。



【5月21日（3日目）】

3日目は朝からビーチへ。シュノーケリングにジェットスキー、パラセーリングを体験した。シュノーケリングとパラセーリングは初めての体験。パラセーリングが特に気持ち良かった。



パラセーリング体験中

3日目の夕食は BBQ&ポリネシアンショー。前半の BBQ は煙が凄くて大変だったが、ショーの方は昨日のものとはまた違う感じで素敵だった。

【5月22日（4日目）】

4日目は9:00の飛行機でグアムを後にし帰国。伊丹ー高知はなんとプロペラ機！18:30 ごろに高知へ全員無事到着。



初めて乗ったプロペラ機！

今回グアムに初めて訪れたが、天気も良く、スクールにもあわず、とても快適だった。25セントになかなか馴染めなかったのもいい思い出。

高知ーグアムの移動は大変だったが、リフレッシュでき、とてもいい旅だった。

グアム研修旅行

PPPチーム 小松 由和

はじめに

生まれて初めての海外旅行は、3年前の台湾でした。なんだか昨日のここのように感じるけれど、あっという間に3年が経ちました。そして今回、人生2回目の海外旅行で、南の島グアムに行ってきました。

日本から南へ約2500km、時差はJST+1.0。

1年を通じて温暖な気候ですが、ちょっと湿度が高い気がします。昼間は太陽に容赦なく肌を焼かれるけれど、朝夕は過ごしやすいです。海もきれいで山もあって、島全体が一つのアトラクションのような雰囲気です。

中心街のほとんどのお店では日本語が通じるし、日本語のメニューを置いているところもあります。英語が苦手な人でも大丈夫。

なるほど。お正月をグアムで過ごしたくなる気持ち、すごく分かる。

1日目

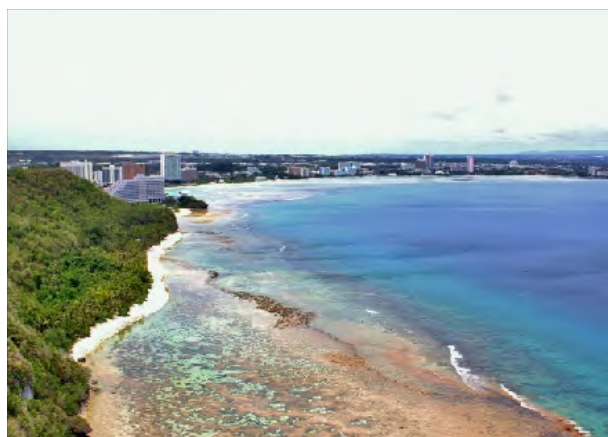
木曜日。長い一日になりそうな予感。

高知龍馬空港から大阪の伊丹空港まで飛行機で移動。伊丹空港から関西国際空港へはバスで向かいます。関空に到着して、お昼ご飯を食べて、日本円を米ドルに換金して、ちょっとぶらぶら。日本を19時頃に出発し、3時間30分後にグアムに到着しました。一日中歩き回って、もうすでにクタクタでへとへと。最後の力を振り絞りなんとか宿にたどりつきました。部屋についたらすぐにシャワーを浴びて、早めに寝ようと思ったのに、はしゃいでしまっかなか眠れず。

2日目

金曜日。結局2時間くらいしか寝られませんが、体調はわりと良好です。

午前中、ラッテストーン公園やサンタ・アグエダ砦、恋人岬と太平洋戦争記念館ビジターセンターなどを巡りました。約70年前の太平洋戦争時、グアム島も激戦地となり多数の死傷者が出たそうです。島内には記念碑や遺構が点在し、当時の悲惨な情景を静かに伝えています。



恋人岬からタモン湾を望む

昼食後は夜まで自由時間。仲間内6人でホテルの近辺を散策し、お土産を購入することになりました。マカダミアナッツ、マンゴーやココナッツを使ったお菓子、定番のキーホルダーなどはどこのお店にも似たようなものが置いてあって、結局のところは、値段が少々違うくらい。各々気に入ったお土産を購入し、とりあえずホテルへ。



市内の町並み

夜。今回の旅行での（個人的）3大ハイライトのひとつであるディナーショーへ向かいました。内心、観光客相手にちょちょいとダンスを見せるだけだろうと高をくくっていましたが、見事に裏切られました。マッチョ達による迫力満点のパフォーマンスや、民族衣装を身にまとった可憐な女性達の蠱惑的なダンス。最高のエンターテインメントショーでした。



3日目

土曜日。ついにこのときが来てしまった。

（ここから少しオーバーな表現になります）

朝、6時前にたたき起こされ、車に放り込まれる。支給されたのは、わずかな食料とお茶。20分ほどで怪しげな事務所に着。なにやら書類にサインを書かされ、青いツナギに着替えさせられる。別室に連れて行かれると、そこには何かを背負った屈強な男達が待ち構えていた。挨拶も程々に外へ連れ出される。広々とした倉庫を抜けると、一機の小型機が待機しているではないか。「乗り込め」そう言われた気がした。動揺を隠せないまま男達と一緒に乗り込む。小型機はぐんぐん上昇し、高度4200mに到達。すると、飛行中にもかかわらず、屈強な男の一人がドアを開け、言い放った。「飛ぶぞ」出会ったばかりのパートナーに命を預け、大空に解き放たれる。（ここまで）

自由落下時間はおよそ1分間。ですが、とてつもなく長く感じました。徐々に落ちてはいるもののいつまでたっても地面に近づけないので、とて

も不思議な感覚に陥ります。ある程度の高度でパラシュートを開き、着地するまでのしばしのあいだ空中散歩。快晴とまではいきませんでした。好天に恵まれ、グアム島を一望することができました。もう一度飛びたいかと聞かれると「はい」と即答できるほどの面白さでした。これが2つ目のハイライト。（ちなみに3つ目は、教会での10秒動画。何回見ても飽きない面白さ。）

4日目

日曜日。楽しかったグアムとも今日でお別れ。せっかくグアムへ来たのに海で泳げなかったのが、少し心残りです。お土産も買ったし、忘れ物なし。ホテルを後にして空港へ向かいます。初日と同じコースを逆にたどり、18時30分頃に高知へ着きました。

さっきまでの喧噪とした場面から一転、駐車場までの送迎バスの中の静けさに、一抹の寂しさを感じました。

おわりに

知らない土地で、ましてや外国ともなると、最初はいつも以上に慎重に行動する。

さっきまで当たり前だったことが特別になる瞬間。ただ道を歩くだけなのに何度も振り返ったり、信号がいつ変わるかってドキドキしたり、初めて口にする食べ物がどんな味なのかを想像したり、買い物をするときだって、つい紙幣で支払ってしまい、気づいたら硬貨が沢山だったり。いつもなら、ほとんど無意識のうちにこなしてしまう些細なことを、少し不安になりつつ一生懸命にやる。しばらくすれば慣れてしまっ、次のステップに進みたくなるけれど。

仕事だって勉強だって、最初は不安だらけで慎重にもなる。だけどそのうち、当たり前になれる瞬間がきつとくる。その瞬間を味わうために、一日一日を大切にしていきたいと思う。

今日は月曜日。新しい一週間が始まる。

社員旅行（第一班）に参加して

設計一部都市計画課 横山 成郎

1. はじめに

5月19日（木）～22日（日）の3泊4日のグアム旅行、そのうち20日（金）と21日（土）の2日間、グアム島の豊かな自然と歴史の名所を見学し、特に太平洋戦争の歴史とチャモロ民族の生活に関して、身近に知ることができ、記憶に残ったので、その内容と感想を以下に記述する。

2. 太平洋戦争の歴史を学んで

「1944年7月21日アメリカ軍がアサン海岸とアガット湾に上陸、上陸を想定して備えていた日本軍の総攻撃を撃破し、前線は日本軍を北部へ追い詰め、掃討し、ジーゴ平和慰霊記念公園付近で1945年9月4日最後の日本兵が降伏、その後日本侵攻の前線基地としてB29が飛び立つ空港が整備された。このグアム戦の敗北で日本の敗北が既に予想された。」、ということガイド等から聞き、学んだ。

アメリカと日本の戦いによって多くの兵士が亡くなり、先住民のチャモロ人も日本軍によって殺害された、という歴史を残存している実物や資料で知識として得、また戦禍となった土地を踏みしめ空気を感じたことは、技術者として社会のために役立つことを常に考えながら、平和な社会を築くことに専念しなければならないと、改めて思った。



太平洋戦争博物館

3. グアム住民（チャモロ人）の生活の感想

人口17万人、面積は淡路島とほぼ同じだそうで、3時間もあれば一周できるそうである。

ホテル周辺は高層階のビルが立ち並んでいるが、そのエリアを外れ南へ行くと、小さな集落が湾の周囲や、4号線沿いに、ほぼ並んで建っている。ほとんどがコンクリート造の平屋で、駐車スペースと洗濯物を干しているピロティ形式の空間がみられた。

土曜日にツアーで回ったが、ほとんど人がいる気配がしない。前日の金曜日が給料日で、買い物やビーチへ出ているらしい。2つの教会では、葬式を執り行っていた。

アメリカからの輸入品がほとんどで給料の割に物価が高く、多くの世帯は生活ができれば満足、という感じで、気候が温暖な高知も似たところがあるかな、と思った。

カルチャーパークで、チャモロ人の高校生が椰子の実の割り方を実演してくれた。高知で言う棒踊りのダンスも見て、先住民の暮らしを想像することもできた。



カルチャーパーク

2. おわりに

ホテルのあるタモン湾のビーチを2日間、夕方ジョギングした。往復40分、約5km、砂浜を走り体力づくりができ、大満足の旅行であった。

社員旅行に参加して

設計一部河川砂防課 片岡寛志

1. はじめに

5月19日から5月22日まで3泊4日の日程で社員旅行に参加した。今回の目的地はグアムであった。海外旅行は約20年ぶりだった。

ホテル周辺もすっかり暗い。とりあえずコンビニに移動してビールとつまみを購入。日本製のカップラーメンやお菓子が異常に高い。

2. 5月19日（グアムへの移動）

10時30分に高知空港へ集合し、11時35分発のANA1606便で伊丹空港へ向かう。いつものことながら、離陸したと思ったらすぐ着陸態勢に入る。チェックインから飛行機に乗り込む時間の方が長いくらいだ。

伊丹空港から関西国際空港まではリムジンバスで移動。

関西国際空港では少し時間に余裕があるので、両替後本を読んで時間を潰す。

グアムへは、19時発のDL473便を使う。座席自体は大振りですり心地も問題ないが、前後左右どちらも窮屈に感じる。使用機材の757型機は胴体が細いらしい。

グアム到着時刻は23時35分。深夜だ。空港内は閑散としている。入国手続は比較的スムーズに進んだ。空港からホテルまでバスで移動。右側から乗り込んで海外に来たと感じた。

3. 5月20日（グアム島内観光）

昼食まではバスでグアム島内を観光した。スペイン人の作ったものやアメリカ人の作ったものに加え、戦時中に日本人が作った（作らせた？）ものもあり、複雑な歴史を知ることができた。驚いたのは、学校の進級前の休みが長いこと、州でないから住民に大統領選挙権がないことであった。

恋人岬という場所はやたら高い位置にあり景色は綺麗なのだが、空恐ろしくまともにも下を見ることができなかった。



写真 2 恋人岬の展望台

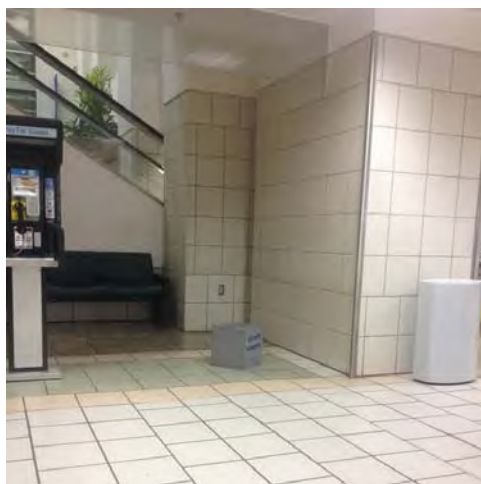


写真 1 空港ロビーの謎の箱

夕食前に海中展望塔に入ったが、透明度が低く、魚やサンゴがよく見えなかった。日没前という時間帯も関係しているのかも知れない。

ポリネシアンショーは非常によく出来た構成で、予想以上に楽しむことができた。ただ、ショーが始まるまでの間も場内の照明が青く、食べ物が美味しそうに見えなかったのが残念だった。

4. 5月21日(グアムの海とハンバーガー)

午前中は、路線バスに乗ってイパオビーチパークに行き、海水浴を楽しんだ。



写真 3 イパオビーチパーク入口の門

砂浜はサンゴが砕けた白い砂で、直射日光を受けても全く熱くない。裸足で歩いても問題なかった。海は遠浅で、少し泳げば大きなサンゴがあり、目の前を熱帯魚が泳いでいた。ゴーグルを持っていなかったの、十分に堪能はできなかったが、その多さに驚いた。



写真 4 イパオビーチパークの砂浜

前日のガイドさんはナマコが大量発生しているようなことを話していたが、それほど多くはなかったように思う。

浜辺には無料のシャワーがあり、塩を流したあと、少し歩くとすっかり乾いたので、

そのままバスに乗ることができた。

今度行く機会があれば、ビール入のクーラーボックスとゴーグルを忘れないようにしましょう。

一旦ホテルに戻り、地元で人気だというハンバーガーショップに向かう。評判どおり、店の外まで客が溢れている。20分くらい並んで注文する。ハンバーガーは一口でかぶりつくには大きすぎたし、付け合せのポテトはやたら多いが、味はよかった。



写真 5 アメリカンサイズ(?)のハンバーガー

食事の後、目の前にある K マートやホテルの近所でおみやげを物色した。

5. 5月22日(日本への飛行)

朝早くホテルを出発。空港のセキュリティチェックはやたら厳しかった。日本では持ち込み可能な未開封のペットボトルも没収されたし、靴まで脱がされた。物騒なんだね。

帰国便の DL172 便は遅れもなく順調に開空に到着。終わってみればあっという間の3泊4日だった。

6. さいごに

今回の旅行は事前のリサーチに時間を掛けられなかったので、自由時間が間延びしてしまった。事前調査の大切さを痛感することができた。

社員旅行 in グアム

設計一部 河川砂防課 島村 圭太

1. この度、参加させていただいた3泊4日の社員旅行は、私にとって見開を広げるうえで有意義なものとなりました。

2. 2日目に訪れた恋人岬は、観光地ならではの美しい景色に見とれるばかりでしたが、太平洋博物館では、太平洋戦争でのマリアナ諸島をめぐる戦いの詳細が記されており、学校で学んだことを、自分の目で確認できたことは貴重な体験であったと共に、戦争がない環境がどれだけ幸せであるかを改めて思い知らされました。



2日目と3日目の夕食の際に拝見したポリネシアンショーは、とても迫力があり、火を使うシーンは飛び火しそうでした。現地ならではの圧巻のショーでも見応えがありました。



3. 3日目はスカイダイビングと逆バンジーに参加しました。

スカイダイビングは上空4200mからのダイブで、最初は飛べるか心配でした。実際は、意外と緊張もせずに楽しみながらダイブすることができ、パラシュートを開いてからは、グアム全体が見渡せ、スカイダイビングならではの景色を堪能することができ、旅行一番の思い出となりました。

逆バンジーは、昼と夜で2回も乗るほど楽しい体験で良い思い出となりました。



4. 2回目の海外ということで、緊張も少なく楽しむことが出来ました。自分の英語力の低さを痛感する機会でもありました。今後は万国共通語である英語に触れる機会を増やし、英語力を身につけて仕事や旅行に役立てればと思います。

また社員旅行が出来るように頑張って仕事をこなし、会社に貢献していきたいと思っています。

はじめに

今年度の社員旅行はグアムである。

去年の7月に兄の結婚式に訪れたばかりの地ではあるが、そのときは家族旅行で、なおかつ台風接近中・直上通過ということもあり特有の文化に触れるであるとか、街中を散策するといったことがほとんどできなかった。

今回は、有名な観光地を一通り回り、レンタカーを借りて遠方まで自力で行くなど、二度目でありながら全く違う旅行になった。

Day.1

一日目は全て移動であった。

高知龍馬空港から伊丹空港へ、伊丹空港から関西国際空港へ、関西国際空港からグアムへ。出発から実に12時間程度の移動である。この辺りの流れは概ね前回と変わらない。ホテル着後、添乗員の加田さんから説明を受けたとおりにホテルの設備をチェックする。窓、鍵閉まる。トイレ、流れる。シャワー、湯出る。金庫、機能する。飲み水は備えつけられていないが、特に問題はない。

夕食は機内食のベーグルのサンドイッチであったため小腹も空いていた。ホテルからすぐにあるK マートへ行き、飲み物と鶏肉のバーベキューおにぎりを購入した。日本には置いていそうで置いていない豪快な一品であったが、味は良かった。

明日は朝から市内観光がある。腹も十分ふくれたので就寝した。

Day.2

二日目は市内観光、昼から自由行動、夕食はポリネシアンディナーショーであった。

スペイン統治下時代の砦や大砲、大聖堂、建築物。かつては熾烈な戦闘の場となり、数多の人名が失われた今は涼やかな草原。そして、恋人岬からのどこまでも突き抜けるような眺望。



現在に至るまで、この小さな島にどれほどの大きな変化が、何度訪れたことか。今はこうして観光地として穏やかに過ごせる平和な時代となったことに、ただただ感謝するのみである。

午後からはホテル前にあるモールにショッピングに出かけた後、仮眠を取ることにした。

夕食はポリネシアンディナーショーのため、ホテルから30分ほどのフィッシュアイマリンパークへ行った。

ポリネシアンディナーショー自体はリゾートホテルであればいろいろなところで行われている。

ただ、今回訪れたフィッシュアイマリンパークはディナーショー向けに作られた施設らしく、舞台装置が他(2箇所しか見た経験はないが)に比べ凝っており、さらにキャストも多いように感じられた。



それだけあってかなり見ていて楽しく、充実したステージであった。

Day.3

三日目は自由行動、夕食は同じくポリネシアンディナーショーであった。

この日は自分の趣味に使うと心に決めていた。
実弾射撃である。

前回の実弾射撃は、台風の影響で大雨であったため満足に的を狙うことすらできなかった。さらに、前回は予算の都合からライフルばかりで拳銃などを撃つことができなかった。それらも補完するには絶好の機会であった。

射撃場まではレンタカーを手配した。9時には出発する予定だったが、レンタカー会社の手違いや手続きの遅さによって結局10時になってしまった。射撃場までは1時間程度。予約は10時であったためかなりひやひやししながら向かっていたが、特に問題なく予約通り射撃できた。ライフル、拳銃、散弾銃、狙撃銃、対物ライフル、一通り射撃した。

特に対物ライフルといえばコンクリートブロックを粉々に粉砕し、厚みのある鉄板を紙のごとく貫通するすさまじい威力を誇る銃である。当然ながらかなり大きい弾丸に大量の火薬を使用するためインパクトも絶大である。しかし、銃本体に重量があり、反動を押さえる装置が組み込まれているため肩に伝わる衝撃はそこまで大きくなかった。

射撃した本人は身構えているため驚かないが、同行者の福留はかなり驚いたらしく、申し訳ないことをしたと思う。日本で販売している遊戯銃にもガス圧を利用して反動を再現した物があるが、やはり実銃は格別で、貴重な体験になった。



出発が遅れてしまったことや、車の返却期限を17時前で切られてしまったことで、残念ながら道中立ち止まって名所を訪ねることができなかった。事前の情報で礼拝堂、天然プールなどの

観光名所、ゴムでの土木構造物(橋梁など)を見て回りたいのだが、惜しい限りである。

運転してみた感想として、左ハンドル右側走行には想像以上にすぐに慣れた。運転免許を持って日が浅いので順応できたのだと思う。

道路は意外に起伏が激しく、一見して壁にも見えるほどの急勾配があった。擁壁らしい擁壁は見なかった。また、主要道を外れるとマンホールが平然と地表面からむき出しになっていたり、おそらく水道管であろう地下埋設物が埋まっている箇所が30cm程度盛り上がっていたりした。

日本の道路事情の素晴らしさを改めて実感するとともに、悪路に強く頑丈なトヨタのピックアップトラックをやたら多く見る理由を体感できた。

Day.4

四日目、帰路。

おおよそ一日目の逆戻しである。

日本に帰国した時の安心感は大きい。

設備はどれも手入れされていて、接客も丁寧でないにより日本語で支障なく会話ができるなど何気ないことがただただ有り難く思えた。

高知空港につくと、全員の無事を祝い、解散した。

終わりに

二度目とはいえ異国の地、言語も文化も常識も違う。日本の良さも、異国の良さも全て触れてみなければわからないことを改めて実感し、行動する前に尻込みしては何も理解することはできないことを再認識した。

今後もチャレンジ精神をもち、前向きに過ごしていこうと思う。

最後になりますが、今回の旅行の実行委員の皆様深く感謝いたします。とても良い経験の連続でした。

ありがとうございました。

以上で、私のレポートとさせていただきます。

社員旅行に参加して

設計一部 河川砂防課 生田 万祐子

1. はじめに

5月19日から22日まで、3泊4日の社員旅行でグアムに行ってきました。
まだ社員旅行でしか海外に行ったことがない私にとって、台湾以来の海外旅行となりました。

2. 5月19日(高知からグアムへ)

1日目はほとんど移動で、グアムに着いたのは夜中でした。グアムの時差は1時間ほどで、時差ぼけもなく、その日は準備や荷物整理等をして就寝しました。

3. 5月20日(グアム1日目)

2日目にはグアムの観光地や歴史博物館を巡りました。日中のグアムは高知とはまた違った日差しで、太陽がとにかく眩しくなかなか目を開けていられませんでした。蒸し暑さがありますが、気温は高知とそれほど変わらないように思います。



丘の上から見下ろしたグアムの街

ガイドさんは日本人とアメリカ人のハーフの方で、終始話が面白く興味深かったです。グアムの先住民はチャモロ族と言われる方々で、長い間様々な国に占領されてきたことを知りました。私にとってグアムという国は日本人に人気のリゾート地というイメージしかなく、太平

洋戦争時の日本による非道な行いについてはほとんど知りませんでした。グアムでの戦いでは多くのアメリカ人、日本人、そして一般市民が犠牲になっており、今まで自分が持っていたグアムの印象はガラリと変わりました。グアムの戦争について、実際に知っている日本人はどれほど居るのでしょうか。私を含め特に若い世代は、グアムやサイパンの戦いを言葉や教科書で知識として認識しているだけで、グアムが凄惨な戦場になったなどと想像もしていないのではないのでしょうか。

タモン周辺はブランド店が立ち並び、たくさんの日本人がグアムを楽しんでいました。しかし、そんな島のあちこちには今でも防空壕が点在し、戦争の爪痕を感じる場所がたくさんあります。「戦争は終わった。許すことはできた。忘れることはできない。」グアムが人気のリゾート地であり続けるのは、グアムの人たちの広い心と優しさ、そして何より平和を大切にしているからだと思います。私たちができることは、歴史を知り、平和を尊び、それを維持する努力をしていくことであると改めて思いました。



グアムのシンボルであるラッテストーン



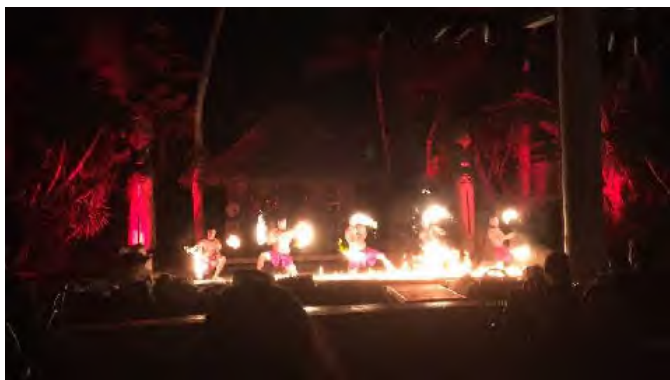
アメリカ軍が上陸したアサン海岸



恋人岬で記念撮影

その後昼食をとり、グアムの街でショッピングなどを楽しみました。日用品は、やはり観光地だけあって全体的に高く感じました。また建物については、タモン周辺やホテルなどは高く巨大でしたが、その他の一般の建物は全体的に低い印象です。また潮風や湿気等の問題なのか、建物の劣化が激しいように思えました。

夕食でのポリネシアンショーはとても面白く、迫力がありました。バイキングであらかたお腹を満たした頃に、ショーが始まりました。様々な国のダンスが次々に上演され、特に女性の腰ふりダンスとファイアーダンスは見事で、あまりに見入ってしまいデザートのアイスはドロドロにしてみました。



迫力満点のファイアーダンスショー



華やかな女性のダンスショー

4. 5月21日(グアム2日目)

3日目にはマリンアクティビティーを楽しみました。シュノーケリング、ジェットスキー、パラセーリングを体験しましたが、どれも時間があっという間でまだまだ時間が足りないと思いました。

シュノーケリングは、うまく息をすることが出来ず苦戦しましたが、かわいい魚たちをたくさん見ました。ジェットスキーは、バランスをとるのが難しかったですが、慣れるとスピードを上げて海上を走るのが気持ち良かったです。パラセーリングは、前の組がやっている時は少し怖そうだな・・・と不安でしたが、やってみると思ったより安定していて風もなく音も静かだったので、のんびりした気持ちで楽しむことができました。パラセーリングは是非皆さんにも体験していただきたいです。



パラセーリングで大空へ

その後はバスに乗ってモールなどに繰り出しました。バスは主なホテルをぐるっと回っており、多くの観光客が大量の買い物袋を抱え乗り込んでいました。

グアムで見かける観光客は圧倒的に日本人が多かったのが印象的でした。ショップ店員やホテルの従業員はもちろんグアムの方たちでしたが、こちらが日本人とわかると日本語で話しかけてくれたりして英語が出来なくてもあまり困ることもありませんでした。ビーチでもそうだったのですが、本当に何処もかしこも日本人ばかりでした。タモンの街中を現地の人が歩く様子はほとんど見られず日本語があちこちから聞こえてくるので、外国に来ている感覚はあまりありませんでした。

夕食はBBQとポリネシアンショーを楽しみました。皆で肉や魚介を焼ながらわいわいと食べる夕食は、バイキングとはまた違った楽しさがありました。また、右城社長が翌日お誕生日ということでサプライズケーキが用意されていました。



社長、おめでとうございます!



激しいポリネシアンダンス

5. 5月22日(グアムから高知へ)

翌日は早朝に空港に向かい、グアムを後にしました。その後の移動もスムーズに終わり、私たちは無事帰国することが出来ました。

6. 終わりに

この度はこのような機会を与えてくれた会社と協力していただいた社員の方はもちろん、私たちに安全で楽しいグアム旅行を提供して下さいました、加田様をはじめとする日本旅行の方々、グアムの方々、そしてこの旅行の幹事を務めて下さいました親睦会の皆さまに感謝いたします。



1日目のバイキング夕食



聖母マリア大聖堂にて



2日目はみんなでBBQ!



ありがとうございました!

社員旅行レポート

地盤防災課 松本洋一

1. はじめに

グアムは、2000年の社員旅行に続いて2度目の訪問である。慌ただしく出発を迎えた今回の旅は、欲張らずゆったりとグアムを満喫したいと考えた。観光1日目は、現地ガイドのヨーコさんの流暢な案内で快適な島内観光であった。2日目は、シャトルバスでタモン湾西部のビーチパークを訪れ、久しぶりの海水浴を楽しむことができた。

2. グアム観光

2.1 常夏の気候

5月は乾期の終盤とのことで、やや曇り空が多かったが、ひとたび太陽が顔を出せば日差しは刺すようにきつく暑い。しかし、ビーチでは1年を通じて吹いているという東寄りの風によって、暑さが和らぎ快適な時間を過ごすことができた。ビーチパークではたくさんの住民の方がバーベキューや海水浴を楽しんでいた。



さわやかな風が吹くビーチパーク

2.2 文化

グアムの先住民はチャモロ族と呼ばれている。チャモロ文化遺跡としてかつて家の土台だ

ったと言われるラッテストーンが多く残されている。また、チャモロ文化を表現するものとしてチャモロダンスがある。今回の旅行で最も感動を与えてもらったのは、フィッシュアイ ポリネシアンディナーショーであった。伝統のダンスをアレンジしたショーは、見応えがあるプロフェッショナルなエンターテイメントであった。男の強さ、女のしなやかさ、神への畏怖など先住民族の伝統・文化の重みも同時に感じる事ができた。



感動を与えてくれたポリネシアンショー

スペイン入植の影響により現在のグアムの人口約8割以上がカトリック教徒である。スペイン広場に近接する聖母マリア大聖堂は白亜の美しい聖堂であった。聖堂の前でいただいた天然ココナッツジュースは意外に美味しく印象に残った。ガイドさん曰く、ココナッツオイルは肌や健康に様々な効果があるとのことで、旅のお土産に購入した。



白亜の聖母マリア大聖堂

2.3 戦争の影

グアムでは、スペイン植民地下や太平洋戦争の遺構を至るところで見ることができる。太平洋戦争国立歴史博物館では日本軍の占領から1944年にアメリカが奪還する激しい戦闘の様子を詳しく知ることができる。グアム島は日本本土への爆撃拠点となり太平洋戦争の重要な転換点となったことを改めて認識できた。

2.4 食

食事は、肉料理を中心とした高カロリーの食事が主体であった。魚料理は、あまり口に合わなかった。グアム近海はマグロ漁場であるが、高級なものは日本などへの輸出されており、島内での鮮魚流通は確立されていないようである。日本料理店で出される刺身等の食材は日本からの空輸で賄われているものが多く高価である。



ヘビーな肉料理にビールは GUAM 1 がベスト



煙の BBQ ディナー

最終日の夕食は、オンワード BBQ ディナーショーで右城社長の誕生日サプライズ企画など楽しい時間を過ごした。その後、煙に燻されて満足いく食事ができなかった面々が行き着いた先は、アウトバックステーキハウス (Outback

Steakhouse) であった。9 オンス (255g) のステーキに山盛りのポテトは、疲れた内臓にとどめを刺した。しかしフィレステーキは柔らかく肉の味を十分に堪能できた。



9 オンスステーキに山盛りのポテト (ベスト)

3. おわりに

今回の旅は、グアムでの滞在をゆったり過ごすことができ、とても満足できるものとなった。

右城社長はじめ参加メンバーの皆様、幹事を務めた親睦会の皆様、お世話になった日本旅行の加田様、留守を務めて頂いた課員の皆様に感謝致します。ありがとうございました。



デルタウィングとグアムの碧い海

2016年 グアム社員旅行

地盤防災課 中村和弘

1. 第1日目

5月19日(木) 10:30 高知龍馬空港集合。ANA1608便で伊丹空港へ。空港バスで関西空港に移動。

ここで両替(1ドル=111.9円)し昼食(とんかつ定食)。

19:00 DL473便でグアムへ。

23:30 着(機内食は軽食)。バスでグアムプラザホテルへ。部屋に入り、パスポートなどをセイフティボックスに入れようとしたが、部屋が暗くて操作方法が分からない。翌朝明るくなってから、4桁の暗証番号を入力することが分かった。風呂に入ったがシャワーしか使えなかった。

2. 第2日目

5月20日(金) 7:00に朝食(バイキング)、9:00に専用バスで市内観光に向かった。太平洋戦争記念博物館の正面には、日本軍の2人乗り潜水艦が展示されており記念写真をとった。



博物館内部には、いろんな展示場があったが、戦勝国目線で作られておりあまりいい気持はしなかった。特に、映画の中で防空壕の中に火炎放射器を放っている場面があり、目を覆いたくなかったものである。

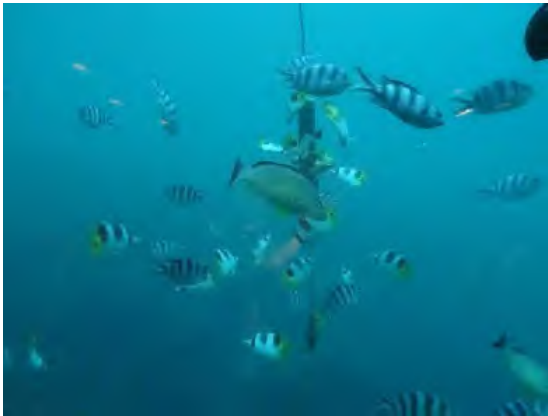
「早期に戦争を終結させ多くの犠牲が出ることを回避するために」という名目で2個の原爆を落とし、その威力の人体実験をやった国が、グアムを解放してやったといっているのだ。敗者への思いやりなど微塵も感じられなかった。

無条件降伏した我が国は、戦後アメリカの「核の傘」に守られ、経済発展のみを追求できたおかげで今日の繁栄を謳歌できている。今後も日米同盟をよりいっそう強固にしていかなければならないのは当然であるが、この博物館を見学してアメリカへの好感度が少し低下したのは残念である。

夜は、海中展望塔を見て、フィッシュアイポリネシアンディナーショーである。

女性の腰振りダンス、男性のファイヤーダンスにみとれてしまった。





だ。89ドル。

8:40 送迎バスに乗りアクアワールドマリーナに到着。シャトルボート「フリッパー2」に乗船しアトランティスのダイブポイントに向かう。

アトランティス潜水艦に乗船する。

海中散歩。まず、陽光が十分に届き珊瑚と魚等が生息する深度 20~25mの海中を潜航し、珊瑚礁に暮らす大自然の生物を鑑賞する。

その後サブマリンは海底 48mまで潜航する。海底は、太陽光が十分でないため、珊瑚は生息せず魚もいない。

浮上し、シャトルボートに乗りマリーナへ。

その後、送迎バスにてタモンベイセンターまで送ってくれる。

タモンベイセンターからホテルまでの道が分からない。

タモンベイセンターの係員にタクシーのりばをきくが、「ここには無い。バスで帰れ」と言う。バスには乗ったことが無いので、「ハイアットリージェンシーホテル」でタクシーを捕まえることにした。(添乗員の加田さんから助言してもらっていた)

ホテルの玄関に男が1人デスクに座っていた。「タクシーを呼んで下さい。」といったら、「どこまでだ、島内観光をしてはどうだ。」という。「グアムプラザホテル オンリー」といっただけで携帯電話でタクシーを呼んだ。

チップを5ドル渡すと、満面の笑みで、「サンキュウー、サンキュウーベリマッチ」といいながら愛想良くなった。

13:30 グアムプラザホテルに到



3. 第3日目

5月21日(土) オプショナルツアーとして、アトランティスサブマリンを選ん

着。ホテルのコンビニでおにぎり2ヶ、
ウーロン茶を買って、部屋で食べ横にな
る。

15:30 掃除の人が来て、ベッド
メイク、掃き掃除などをぱっぱと手際
よくやった。チップ2ドル渡す。

夜は、オンワード BBQ・ポリネシアン
ショーを堪能する。連日の食べ過ぎでお
腹が突出してきた。





4. 第4日目

5月22日(日) 6:10 ホテル出発。バスでグアム空港へ。空港で両替(1ドル=95円)

9:00 DL0172 便で大阪関西空港へ。
(機内食は軽食)

11:55 大阪関西空港着。入国審査後リムジンバスで伊丹空港へ移動。

17:55 ANA1615 便で高知龍馬空港へ。

18:40 高知龍馬空港着。
右城社長の挨拶後、解散。

3泊4日のグアム旅行に参加させていただき感謝申し上げます。

大阪関西空港では、別室につれていかれ身体検査をされ、帰りのグアム空港では、帽子をぬげ、バンドをはずせ、靴を見せろ等けっこうしつこいチェックを受けました。初めての経験でしたが何事も無く無事帰国できました。有り難うございました。

社員旅行レポート（グアム）

設計二部 橋梁構造課 兵頭学

平成 28 年度の第一コンサルタンツの社員旅行はグアム旅行である。私にとっては初めてのグアムだ。

悪天候も心配されたが、なんとか大きく崩れることなく過ごすことができた。

グアムは、高度経済成長期から日本人が行く海外観光地の定番だが、はじめて訪れたのになんだかノスタルジックな印象を受ける。子供のころ見ていた映画の中に出てくる古いアメリカの町のような雰囲気である。

違うのは街行く人にはアジア系が多く、日本語の看板が目立つことか。

2日目の観光地巡りの際に案内役を務めてくれた方が、グアムの仕事は観光業か軍関係の仕事しかないと言っていたが、まさに町全体が観光のためのテーマパークとして、その形を残しているといった趣である。

特に思い出に残っているのは、2日目に訪れた聖母マリア大聖堂である。滞在した時間は 10 分程度とわずかであったが、大きな印象を残してくれた。

私はキリスト教徒ではないが、教会に立ち入ると思わず十字を切って祈りをささげたいような力がある。大聖堂としては規模も決して大きなものではないし、建築もオーソドックスな様式であると思われるが、なんとも言えない荘厳さに胸を打たれる。

将来的にはヨーロッパ旅行も考えているようだが、世界遺産になっているような教会に一度は訪れてみたいと思っている。そのためにも、仕事を頑張ろうと思う。

● 2016 年 5 月 19 日 AM11:35 高知空港→伊丹空

● 2016 年 5 月 19 日 PM12:20 バスで関空へ
関空で各自昼食（中華を食す）

● 2016 年 5 月 19 日 PM19:00 関空→グアム
24:00 過ぎにホテルについてそのまま就寝

● 2016 年 5 月 20 日 PM8:40
島内観光（アプガン砦、聖母マリア大聖堂など）



● 2016 年 5 月 21 日 PM8:30 1日自由日

ホテル周辺で買い物や水族館へ
夕食は、ポリネシアンショー



● 2016 年 5 月 22 日 AM9:00 グアム→関空

● 2016 年 5 月 22 日 PM12:20 バスで伊丹空港へ
伊丹で各自昼食（お好み焼きを食す）

● 2016 年 5 月 19 日 PM17:55 伊丹空港→高知
18:50 解散

グアム研修旅行

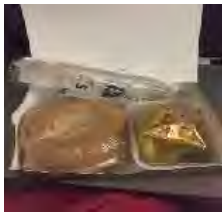
設計二部 橋梁構造課 西森哲也

1. はじめに

5/19～5/22の3泊4日でグアムへ社員旅行に行ってきた。私にとって初めのグアムであり、2回目の海外旅行である。

2. 5月19日（1日目）

初日は移動のみであった。朝10:30に高知空港に集合し、伊丹空港へ。その後関西国際空港へ移動し、5時間ほどの自由時間を満喫しグアムへと向かった。機内食の冷めたハンバーガーは少し残念であった。無事にグアムへ到着した。その日はすぐにホテルに入り、翌日に備えた。



（写真は機内食ハンバーガー）

3. 5月20日（2日目）

この日はパセオ公園→太平洋戦争博物館→アプガン砦・ラッテストーン公園→恋人岬を周りグアムの歴史などを学んだ。夜はポリネシアンショーを見ながらの夕食であった。ショーの途中イケメンダンサーが近寄ってきた。そのまま手を引かれてステージに上がってしまった。ステージでダンスを教えてもらったがかなり難しい。ダンサーたちのすごさを身をもって体験することが出来た。



（写真はポリネシアンショーでステージに上がって記念の一枚）

4. 5月21日（3日目）

この日は自由行動である。私はスカイダイビングに向かった。富士山を越える4200mからのダイブである。どんどん上昇して行くときには飛べるか不安であった。4200m地点に到着すると心の準備が出来ていないうちにインストラクターにされるがままに飛び出した。まるで突き落とされたような気分であった。しかし上空からの景色は飛行機で見るのとは比べものにならないくらい最高だった。日常生活では決して味わえない貴重な体験である。またやりたかったと思った。この日は逆バンジーを初体験したり、1000円もする普通のマンゴージュースを飲んだり、貴重な初体験をいろいろと楽しめた。夜は二回目のポリネシアンショーであった。前日のとは違ったショーを見ることが出来た。

5. 5月22日（最終日）

最終日は行きと同じルートで同じ5時間ほどの待ち時間を過ごし高知へと無事に帰ってきた。

6. 感想

今回の旅行ではスカイダイビングをはじめ、さまざまな経験することが出来た。しかしせっかくグアムに行ったがマリンスポーツをしていない。次回への楽しみとしておく。

台湾のときもそうであったがグアムでもほとんどの場所で日本語が使えた。さすが

観光地であると思った。英語で聞かれたときに返すことが出来ない場面も多々あった。自分の英語の低さを痛感した。英語が出来るともっといろいろな場所で楽しめたと思う。

最後に当社親睦会の方々、株式会社日本旅行の加田様、3泊4日の貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

グアム旅行

設計二部 橋梁構造課 大和田菊代



1. はじめに

思えば、私の初めての海外旅行は、2000年の第一コンサルタツツのグアム旅行でした。当時は右も左もわからず、先輩に段取りを組んでもらい海にジャングルにとめいっぱい楽しんだ記憶があります。今回は自分で下調べをと意気込みはあったのですが、実質滞在期間の二日間では全てを詰め込めそうにないと思いながら、気がつけば大きなスーツケースと共に出発日の高知龍馬空港となりました。

2. ショッピング

旅行で決して外せないのが、家族や友達へのお土産選びです。勿論自分への記念という名目のお土産も含まれます。

便利な事に宿泊ホテルはグアムで一番の商業施設が集まるタモン地区のさらに中心地であり、夕食後の少ない時間でも閉店時間まで見て回ることができました。高級ブランドショップはひやかしてまわり、優しいお値段の

ショップでは、ココナッツオイルやグアムらしい日用品などを店員さんに説明していただきながら沢山購入することができました。

お菓子類をまとめ買いしたのは少し郊外にある「K マート」です。ガイドさんの説明では「デパート」とのことでしたが、生鮮食品こそ置いていないものの陳列方法や雰囲気はこちらでの大型スーパーか、もしくはドラッグストアのようでした。通路は広めですが、すれ違いはぎりぎりになるほどの、日本の三倍はある大きさのカートをつらつらと押ししました。手で持つカゴはないようでした。買いだめが主流のお国柄ならではのカートサイズなのでしょうか。

なおこちらのKマートは、お土産のお菓子類が一番お買い得と感じました。



Kマート内での大きいショッピングカート
4人で1台のカートを使いました

3. 海

ついに前回グアムに来た時から気になっていた、海上を船にけん引されながらパラグライダーで空に浮かぶアクティビティであるパラセーリングを体験することができました。

足を通して腰に添えるだけの心許ないハーネスでつり上げられ、一気に上空に浮かび上

がりました。高さに恐怖はなかったのですが、ロープを巻いて船に引き戻される時に何度かブランコのように揺れたり、船に着地する手前で海に体半分着水させられたりで終始相乗りした日本人の女性と悲鳴を上げてしまいました。上空での滞在時間は5分程度でしたが、大変楽しい経験ができました。



二人乗りパラセーリング

4. 歴史

旅行二日目の午前中はバスで観光地を回りました。アプガン砦、スペイン広場、そして太平洋戦争博物館等です。訪れる先々に大砲や魚雷、防空壕が残されており、数十年前はこの島はまさに戦場であったのだと訴えてきます。特に米軍が最初に上陸した土地で、多くの犠牲が払われたアサン海岸にある太平洋戦争国立歴史公園アサンは、一面芝生で覆われた何もない空間がひろがっており、なんともいえない哀愁を感じました。



太平洋戦争国立歴史公園アサンの一角にある魚雷



アプガン砦の大砲

5. おわりに

前回のグアム旅行では赴かなかった場所に行けた事で、深くグアムを知ることが出来ました。しかし、二日間ではやはり足りずやり残したことが沢山あります。いかにもなりゾートスタイルで浜辺でのんびり椰子の木陰でうたた寝したり読書をしたり、少し路地に入った場所にありそうな南国雑貨の店に行ってみてじっくり物色したりとまだまだ何度訪れても楽しめそうです。

日本から案外近く、気軽に行けそうな旅行先ですので、次こそはプライベートで行きたいと思います。

ありがとうございました。



明るい色使いの協会内



ホテル近くの夜の様子

グアム旅行記

設計二部 橋梁構造課 片山直道

1. はじめに

グアムには、年間約 90 万人もの日本人が入国している。私の友人たちも、5 人に 1 人はグアムに行ったことがあると答える。友人たちから様々な話を聞き、とても身近に感じていたグアム。そんなグアムに実は初めて 3 泊 4 日の社員旅行に出かけた。

2. 旅程

私が行った第 1 班は、男性 29 名女性 5 名の総勢 34 名の構成である。

今回の旅程は以下の通りであった。

【1 日目】移動日（出国）

（高知→伊丹→関空→グアム）

【2 日目】島内観光

パセオ公園-太平洋戦争博物館-アプガン砦・ラットストーン公園-恋人岬

【3 日目】フリータイム

オプションツアー

買い物

【4 日目】移動日（帰国）

（高知→伊丹→関空→グアム）

3. 1 日目

私はこの日一日とてもじれったい思いを経験することとなった。出発の日の朝私は海外旅行に気持ちが高ぶったまま集合場所である高知空港に向かった。空港では、出発前に先輩たちと海外旅行に乾杯し、さらに気持ちを高めた。そして高知を発ち、伊丹・関空と順調にグアムに近づいた。しかし、まさかまさかの

関西空港での長時間の自由時間。ちょうどいい出発時間の飛行機がない。これが四国への厳しさか。私は心の中で叫んだ。

そもそも事前に旅のしおりは渡されていた。しかし、海外旅行に胸が弾みすぎた私は移動日の予定などさらさら確認していなかった。予習の大切さを痛感させられた。予定のなかった私は、先輩方とご飯を食べ買い物などで時間をつぶし、やっとの思いでグアムに旅立つことができた。到着後、夜であろうが遊んでやる。そんな気持ちはどこしれずいつの間にか夢の中へと落ちて行った。

4. 2 日目

起床後全員で島内観光へと出発した。いくつかの観光地を巡っているうちにふと気づいた。日本人が多いことは予想はついた。しかし、予想以上に日本語が通じるではないか。英語という共通語を普段から話すにもかかわらず、どうしてこうも日本語が通じるのだろう。意外に思った。帰国後調べてみると、グアムは島民の約 6 割の人が観光業に従事している。その観光収入の 9 割が日本人によるものであった。つまり島民の 54% の人は日本人の観光によって収入を得ている計算になる。彼らが日本語を話せることはもちろん、多くの場所で日本円が使用できることにも合点がいった。

昼食直前に有名な恋人岬へと向かった。恋人岬に訪れた男女は永遠の愛で結ばれるという伝説があるらしい。実際に

行ってみてその伝説に頷けた。展望台上り、前を見るとすばらしい絶景が待っていた。この絶景で愛が結ばれる。そう思った矢先、下を見ると断崖絶壁ではないか。これは世にいう吊り橋効果ではないのか。正解はわからないが夢のある前者が正解であることを願う。

恋人岬には銀の鐘がある。この鐘は、伊豆にある日本の恋人岬から寄贈されたものだそうで、伊豆にある鐘は金色だそう。この二つの金をつくことができれば、より大きな幸運が訪れるらしい。



写真-恋人岬の絶景

恋人岬を後にした私たちは昼食をとり暫しの自由時間となった。私たちは3日目にお金を使い果たす前にお土産を買いに行くことにした。ホテルの周辺には、多くのお店が立ち並び日本語・日本円が使用できることもあり気楽に買い物をする事ができた。



写真-ホテル周辺の免税店

夕方私たちはポリネシアンディナーショーに向かった。そこには皆を圧倒す

るショーがあった。途中、お客さんの参加型のショーが行われた。ひそかに舞台上に立つことを狙っていた私だが、選ばれたのは西森さんだった。悔しかったが、西森さんの堂々としたショーに社員皆が大爆笑であった。

夕食後ホテルに帰り先輩方とホテルのバーで語り合った。こうして先輩方と腹を割って話し合えるのは、社員旅行の醍醐味であろう。



写真-西森さんによるダンス

5. 3日目

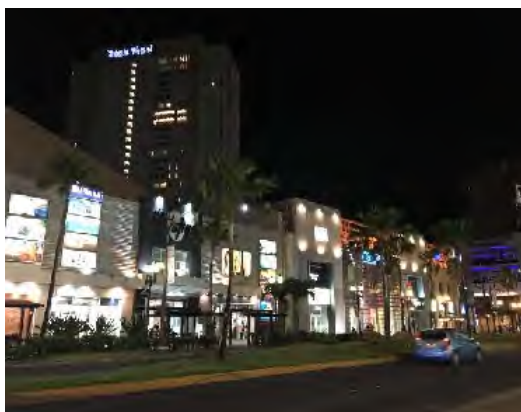
私は、道路課の又川さんと一緒にマリンスポーツへ出かけた。グアムの海はとてきれいで「すごい」この言葉以外出てくることはなく圧倒された。ただ残念なことに、この日は潮の干満が激しい時であったため、午後からは浅すぎて泳ぐことができなかった。我々は後ろ髪をひかれながらホテルへ戻った。



写真-グアムの海

ホテルに戻ると、ほかのツアーの人た

ちも戻っており数名で買い物へ出かけた。お土産は買い終えていたと思っていたが、日本人女性の買い物をする姿を見て、妻へのお土産を忘れていたことに気付いた。これは一大事である。心を震わせながら、そっと財布を覗くと何とかお土産を買うだけは残っていた。一件落着であった。買い物の道中親子お揃いの服を見つけ、皆に笑われながら愛娘とお揃いを購入した。



その後夕食をとり、最後の夜の街へと出かけた。私たちは最後の思い出にと逆バンジーに向かった。飛ぶ前はビビリまくっていた私もいざ飛んでみるとあっけないものである。その後ホテルに帰り寝支度をしていると、一回り以上離れた先輩方に部屋に誘われた。お酒を交えながら、仕事のことプライベートのことを相談に乗っていただいた。一回り以上違う若者の相談に乗ってくれる。本当に良い上司の方に支えられていると改めて感じた。

6. 最終日

初日と同じく過酷な工程であったが、疲れていたためかほとんどを睡眠で過ごした。初日は予想外であったが、とて

も満足のいく4日間であった。

7. 終わりに

今回の旅行で普段の疲れをいやすこともできた。また社員旅行を通じて普段接点のない方々とも交流をとることができ、より一層社員一丸となったと感じた。

最後に、このようなとても充実した旅行ができたのも、西村会長をはじめ親睦会の皆様、日本旅行の加田様のおかげであり心より感謝申し上げます。



平成 28 年度 社員旅行

設計二部橋梁構造課 田所 良太

1. はじめに

社員旅行の行き先は、人生で初めて日本を離れることとなったグアムでした。初の海外旅行。英会話はほとんど分からない。少し不安でしたが、現地ではほとんどのものに和訳がついており、初めての海外旅行には最適な場所だと思いました。

2. 1日目

初日は各所の観光地を巡るツアーでした。恋人岬やスペイン広場等いろいろな場所に行きました。最も印象に残った場所が「太平洋戦争記念館」です。

グアムといえば「一年中夏でトロピカル」というポジティブな印象しかありませんでした。しかし、太平洋戦争時には悲惨な戦場と化し多くの人が犠牲となっています。当然、島民も戦火に巻き込まれ、日本軍占領下の時代には労働者としてひどい扱いを受けていた歴史を知りました。外国から見た日本の歴史というのが初めてであり、立場の違いにより善悪さえも逆転するというのを改めて感じました。

3. 2日目

2日目は、以前からやってみたいと思っていたスカイダイビングを体験することにしました。基本は高度 2400m ですが、またとない機会のため、高度 4200m からのダイブに挑戦。離陸から目的高度 4200m 地点までの間、窓が開いたままと

いう開放的な空の旅が楽しめました。機内では耳元で話しかけても声が聞きづらいほどの風の強さで、インストラクターとの最終確認はジェスチャーで行いました。



ダイブ直後に小さなパラシュートを開いてしまうため、落ちるというより吊られている感覚でした。視界全体に広がったグアム島の景色は最高でした。



4. おわりに

社員旅行を無事に終えることができ、添乗員をして頂いた日本旅行の加田様、また、親睦会のみなさまに感謝致します。

平成 28 年度社員旅行レポート

平成 28 年 5 月 30 日
橋梁構造課 石川幸作

はじめに

平成 28 年 5 月 19 日～22 日の 4 日間、社員旅行に参加した。今年度の旅行先は、事前アンケートの結果により決定した、グアムである。私にとって、初めての海外旅行となった。

グアムは日本の南（マリアナ諸島）に位置し、時差は 1 時間である。

滞在期間中は天候に恵まれ、快適に旅行を楽しむことができた。

5 月 19 日(木) : グアムへの移動

高知龍馬空港～伊丹空港（フライト 30 分）、伊丹空港～関西国際空港（バス 1 時間）、関西国際空港にて待機 4 時間、関西国際空港～グアム国際空港（フライト 3 時間 30 分）を経てグアムに到着した。空港での待機時間を除けば、5 時間程度の移動時間である。

5 月 20 日(金)

旅行 2 日目はツアーバスにて観光地を巡った。始めに訪れたのが、アプガン砦である。スペイン統治時代に築かれた砦で、アガニア湾を見渡すことができる。設置されている大砲のレプリカには破損している箇所もあり、積極的な保全はなされていない様子であった。



写真-1 アプガン砦に設置されている大砲のレプリカ

その後、ラッテストーン公園、スペイン広場を廻った後、太平洋戦争公園へ向かった。

この地は、第二次大戦中、グアムを占拠していた日本軍とアメリカ軍との戦闘が開始された場所である。

併設されている太平洋戦争博物館では、当時の資料の他、記録映画の上映が行われていた。



写真-2 太平洋戦争博物館 入口付近の様子



写真-3 太平洋戦争博物館に展示されていた日本軍の潜水艦

5 月 21 日(土)

この日は自由行動である。観光客向けのシャトルバスを利用して、大型ショッピングモール、アウトレットモールでの買い物を楽しんだ。

シャトルバスのバス停には、日本語の表記がされており迷うことはない。



写真-4 シャトルバス バス停の様子

昼食はショッピングモール内のフードコートにてとった。メニューには全て日本語が併記されていた。観光産業はグアム最大の産業であり、観光客向けの配慮を感じることができる。



写真-5 ショッピングモール内フードコートの様子

5月22日(日)：日本への帰国

初日と同様の経路で、日本へと帰国した。復路では、伊丹空港で4時間の待機となった。

旅行を終えて

グアムでは、観光客向けのサービスが充実していた。どこを訪れても、日本語が溢れている。

私のように初めて海外旅行をする者でも、安心して旅行を楽しむことができた。今後、機会があれば社内旅行ではなく、自分自身で計画を立てて、海外旅行に行ってみたいと思う。

残念であったのは、観光名所の周辺であっても路上等にゴミが捨てられ放置されていること、観光用オブジェの補修が十分なされていないことである。観光資源の保全に対して、日本人とグアムの人とは考え方に違いがあるのかもしれない。

社員旅行レポート(第1班) ~in GUAM~

設計二部 道路交通課 又川 嵩哉

1. はじめに

入社3年目の本年、人生で初めての海外旅行に行くことができた。昨年度の業務最多忙期に、必死に時間を空けてパスポートを取得したことから始まったこの社員旅行では、普段以上に他の部署の方と交流を深めることができた。旅行中の思い出を振り返り、その内容を報告する。

2. 旅行スケジュール

【1日目】

グアムへ出発 [AM10:30~PM00:00]
(高知龍馬空港→伊丹空港→関西国際空港→グアム国際空港→グアムプラザホテル)

【2日目】

グアム観光名所巡り
→昼食 [AM8:40~PM14:00]
(パセオ公園, 太平洋戦争博物館, アプガン砦・ラッテストーン公園, 恋人岬)
フィツシュアイポリネシアンディナーショー [PM17:30~PM22:30]

【3日目】

オプションツアー「パラダイスアクア」 [AM8:30~PM13:30]
(ジェットスキー, バナナボート, 水中バイク, シュノーケリング)
オンワードBBQ&ポリネシアンショー [PM18:10~PM21:00]

【4日目】

日本へ帰国 [AM6:10~PM18:40]
(グアムプラザホテル→グアム国際空港→関西国際空港→伊丹空港→高知龍馬空港)

3. 1日目

旅行初日は集合時間がAM10:30だったこともあり、余裕をもって行動することができた。高知龍馬空港から伊丹空港へ、伊丹空港から関西空港にはスムーズに移動ができた。関西空港では、飛行機が出発するまで約4時間の待ち時間があった。しかし、橋梁構造課の兵頭係長、田所主任、片山さんと昼食をとり、外貨両替をしているうちに出発の時間となった。他の部署の先輩と笑いながら食事を取り、何気ない話ができる機会は少ない。貴重な時間を過ごせた。

グアムプラザホテルに到着したのはPM0:00頃であった。夜も遅かったが、明日のスケジュールや部屋の確認を終えた後、グアムの町を見に行った。向かった先のコンビニエンスストアで売られていた日本製の食品(カップ麺等)は、日本で買うより値段が3~4倍くらい高く、大変驚いた。ここで夜食を買うのはやめて、マクドナルドでハンバーガーとポテト(合計4\$位)を買いホテルに帰った。約1日の移動で疲れていたため、食べた後は、すぐに眠ることができた。

4. 2日目

2日目の午前中は、グアムの町並みを見ながら観光名所を巡った。太平洋戦争博物館や恋人岬、ラッテストーン公園等を10~30分観光した。短い時間ではあったものの、グアムを目で見て感じることができた。



写真3 ラッテストーン公園

特に観光中に印象に残ったのは、最初の目的地に向かう途中で、バスガイドさんが「グアムの道路には、アスファルトと砕いたサンゴを混ぜた舗装を使用している場所があり、雨の日にはとても滑りやすく事故が多い。」と言ったことであった。調べてみると、その道路の名称は「コーラルロード」。雨が降ると混入しているサンゴから油分が出て、タイヤと道路間の摩擦抵抗が弱くなりスリップしやすいということであった。私の所属課で常に道路の事を考えているため、とても興味深い内容であった。



写真1 As 舗装道路(左)とコーラルロード(右)

午後の自由時間では、両親や友人、また今回旅行に参加できなかった会社の上司や同僚へのお土産を買った。ホテル付近にも多くの店があり、近場で買い物を楽しむことができた。



写真3 グアム街～昼の風景～

夕方は、ポリネシアンショーを鑑賞しながら、ビュッフェ形式の食事をゆったりと楽しんだ。



写真4 ポリネシアンディナーショー

少し飲み足りなかったため、ホテルの中庭のBARでお酒を楽しみ、AM1:00頃に、明日のオプションツアーに備えて就寝した。

5. 3日目

3日目は、同室であった橋梁構造課の片山さんと同じオプションツアーを選択していたため、一緒に南の海へとバスで移動した。到着後はガイドさんの説明を聞き、ジェットスキーや水中バイク等を楽しんだ。PM10:00過ぎにはビーチに多数の観光客が集まっていた。休憩時間に他の観光客の方や現地のガイドさんとの会話も楽しみながらオプションツアーを終えた。



写真6 早朝のグアムビーチ

夕方は2日目とは別の場所で、ポリネシアンショーを鑑賞しながらBBQを楽しんだ。その日は右城社長の誕生日でもあった。途中、ショーで歌っている曲がバースデーソングに変わり、社長へのサプライズ誕生日祝いも行われた。大変賑やかな時間を過ごせた。

夜はグアムの町中にある「逆バンジータラクション」に乗った。少し怖かったが上空からは夜のグアムの夜景を一望でき、大変楽しかった。



写真5 グアム街～夜の風景～

その後、グアムプラザホテルに帰り、向かいの部屋の調査測量課の三浦係長、空間情報課の長崎係長とお酒を飲み、AM3:00前に就寝し3日目を終えた。

6. 4日目

4日目は朝早くからグアムを出発し、PM14:00頃に帰国した。伊丹空港では、久しぶりに日本での食事を楽しみ、お土産等を購入した。PM18:30、第1班全員が無事に高知龍馬空港に到着。名残惜し

くも社員旅行の全日程が終了した。



写真7 機内から撮影した空の風景

7. おわりに

旅行に参加した第1班の方とは、日頃しないような話をする事ができ、大変楽しい4日間を過ごす事ができた。

初めての海外旅行で、若干戸惑う部分もあったが、私にとっては大きな休みになると同時に、知らないことをこの身で体感することができ、また、今までになかった経験をすることができた。

グアム社員旅行

調査測量課 三浦 貢一

1. はじめに

グアムに行くのは2000年(平成12年)の社員旅行以来の2回目である。前回は16年前と若かったため、海岸やプールで楽しんだ記憶がある。今回も、楽しい旅行になればと思い旅行に参加した。

2. 一日目(高知→グアム)

関西国際空港出発は19:00である。関西国際空港での待ち時間は、同僚と回転寿司屋で小さな宴会を行った。

出発から約3時間でグアムに到着した。天候は雨であり、明日が心配であった。

日本との時差は+1時間。酒類の販売は2時までとなっており近くのコンビニは社員でいっぱいだった。

【宿泊先のグアンプラザホテル】



3. 二日目(グアム島内観光)

ガイドさんの話では近年、最高気温は27℃であり、10年前(32℃)と比べて過ごしやすくなったそうである。

【9:00 ぐらいの空の様子】



観光は、パセオ公園ー太平洋戦争博物館ーアプガン砦・ラッテストーン公園ー恋人岬の順に周遊した。グアムの歴史について学び、綺麗な景色を眺望し、観光は終了した。

【太平洋戦争博物館】

白いアーチ部が合掌している様を表現



【恋人岬】

断崖絶壁からの風景



夕食はフィツシュアイポリネシアンディナーショーで楽しみ、夜はホテル周辺で過ごした。

【ポリネシアンディナーショー】

炎の熱気が食事席まで伝わった

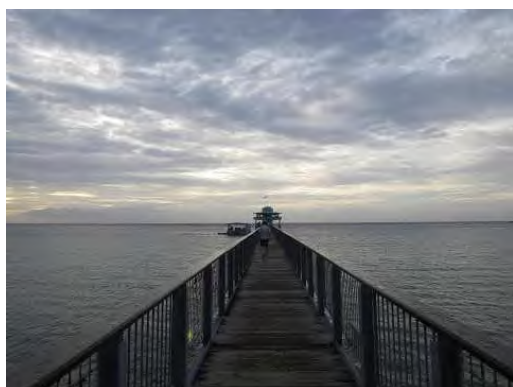


4. 三日目(グアム自由行動)

朝の9:30から同僚3人とオプションナルツアーのSea walker(シーウォーカー)に出発した。海の中を散歩し、魚や珊瑚などを観て、ふれあい楽しむものだった。

場所は前日に夕食前に立ち寄った栈橋の向こうにある海底展望台のある海岸だった。

【栈橋の先端が海底展望台】



水深は約10m、時間は20分程度であり、ダイバーの誘導により海底に設置してある手すりを頼りに歩くものだった。はじめは、水中ヘルメットの圧迫感と水圧に戸惑ったが貴重な体験ができてよかった。

【ダイバーによる写真撮影】



昼過ぎにはホテルに到着したため夕食までの間、近辺で食事、買い物をした。

夕食は前日と同様のポリネシアンディナーショーでのBBQだった。80人ぐらい一斉に始めたため煙でショーがあまり見えなかった。私は貝、海老などの海鮮系を美味しくいただいた。

5. 四日目(グアム→高知)

グアム発9:00の飛行機にて日本に戻ってきた。伊丹空港では、高知発の便まで時間があり食事、買い物をした。

グアムではBBQ、バイキング形式の食事が多かったため帰国後にお蕎麦を食したら何だか落ち着いた気分になった。

高知に到着したのが18:30であった。グアムではバスのトラブルがあったが社員皆無事に帰国できた。今回の旅行は3泊4日であったが以外と長く感じられた。充実していたと思う。16年振りのグアムであったが前回の景色、建物、遊んだ場所など、意外と覚えていた。

グアム全体は散策していない。家族で訪れる機会があれば満喫したいと思う。

社員旅行

調査部調査測量課 岡村 和輝

はじめに

平成 28 年 5 月 19 日～22 日、社員旅行に参加した。行き先はグアム。海外旅行は、はじめてだったため、楽しみ半分不安半分で出国した。

1 日目（高知からグアムへ）

高知空港を出発し伊丹空港、関西国際空港を経由し、グアム国際空港に到着した。

宿泊先はグアムプラザホテル。繁華街の中心にありショッピングなど便利な場所だった。

時差は日本より+1 時間だったので時差ボケは全くなかった。



また、グアムの綺麗な海や街の景色に心癒やされた。



夕食は、フィッシュアイポリネシアンディナーでショーを見た。凄く情熱的で楽しい時間だった。



2 日目（グアム観光）

パセオ公園、太平洋戦争博物館、アプガン砦・ラッテストーン公園、恋人岬を観光した。それぞれの場所で説明を聞き、学ぶことがたくさんあった。

なかでも、太平洋戦争博物館では、いろいろな資料や展示物・戦争の映像などを見て、改めて戦争の恐ろしさを感じた。

3日目 (フリータイム)

オプションツアーでスカイダイビングに挑戦した。高度は4200m。飛行機の高度が上がるにつれ心の余裕がなくなった。飛行機から飛ぶと20秒ほどパラシュートを開くことなく凄いスピードで落下した。スピードが速すぎて顔に風があたり息が苦しかった。パラシュートが開くとグアムの綺麗な景色が一面に広がって感動した。



夕食は、オンワードBBQ&ポリネシアンショー。ショーの途中でお客さんの中から8名ほどダンサーが選ばれステージで踊るといったものがあった。そのダンサーに私も選ばれた。大勢の人前で踊るのは恥ずかしかったが、良い思い出だ。



4日目 (グアムから高知へ)

楽しかったグアムから行きと逆の順路で帰国。いくつかハプニングはあったが、全員

無事に帰国できよかった。



さいごに

今回初めての海外で少し不安だったが、グアムはいい島で充実した日々を過ごすことが出来た。ポリネシアンショーやスカイダイビングなど、グアムでなければ体験できないことを経験でき楽しかった。



社員旅行レポート（グアム）

調査部 調査測量課 福留 誠

1. はじめに

5月19日(木)から22日(日)の3泊4日でグアムへ社員旅行に行ってきた。

私は初めての海外旅行であり、初めてのグアムとなった。

2. 高知からグアムへ

朝の10時30分に高知龍馬空港に集合し、11時35分のANA1606便で伊丹空港へ向かい、伊丹空港からはリムジンバスで約1時間かけて関西空港へ移動した。

そして、18時45分のDL473便でグアムへと向かった。

機内食はベーグルのサンドイッチを食べたが、ベーグルが固く食べるのに少し苦労した。

グアムには23時過ぎに着いた。

時差は日本より+1時間しかないため時差ぼけは感じなかった。

入国審査を済ませた後宿泊先のグアムプラザホテルへ移動。ホテルへ着いた時には0時を過ぎていた。

部屋に荷物を置いた後はKマートで少し買い物をして一日目が終了した。

3. グアム観光

2日目の午前中はバス移動でグアムを観光した。

最初の観光地はハガニア地区にあるアプガン砦。

旧スペイン軍がチャモロ族と戦うために作られた場所らしい。

当日は天気も良く、アプガン砦からの眺めはとても綺麗だった。



バスに乗り2箇所目に観光したのは、同じハガニア地区のスペイン広場の裏にあるラッテストーン公園だ。

ラッテストーンはチャモロ族に築かれた「ハリギ」と呼ばれる柱身と「タシ」と呼ばれる石で構成された重要な建物の基礎（土台）として作られたものらしい。



3 箇所目はハガニア屈指の観光名所でスペイン広場の隣に立っている聖母マリア大聖堂。



教会内でのマナーは帽子やサングラスをとり、祭壇には立ち入らない。

また、信者が祈りを捧げている場合があるので、その場合は邪魔しないようにすること。



4 箇所目は再びバスに乗り、アサン海岸へ移動した。

アサン海岸は日本軍を攻めるためアメリカ軍が上陸を開始した場所らしい。



5 箇所目は太平洋戦争博物館へ移動した。

太平洋戦争博物館には、アメリカ軍がアサン上陸によってグアムを占拠していた日本軍を制圧した時の映像や、戦争当時の資料が展示されていた。



6 箇所目は昼食前に恋人岬へ行った。

恋人岬は、チャモロ族の娘が結婚を迫るスペイン人総督から逃れ、同じチャモロ族の恋人と永遠の愛を誓い、岬の断崖から身を投じたという伝説がモチーフになっているらしい。

昼食を済ませた後は、繁華街で買い物をして前日の疲れもあったため夕食の時間までホテルで休憩をした。

4. グアムでの夕食

2日目の夜は、フィッシュアイ・ポリネシアンディナーショーを楽しんだ。



料理では、牛肉のステーキやシーフードにお寿司やフルーツとデザートなど、多くの料理が並んでいた。

ディナーショーを見るのは初めてだったが、パフォーマンスの凄さに感動し、気づいた時にはその世界に引き込まれていた。



5. フリータイム

3日目はレンタカーを借りて、同期の小島とドライブも兼ねて、タロフォフォの滝と言う場所へ行った。

タロフォフォの滝では実弾射撃を体験した。

的は人型の紙や、ペットボトル、風船、など色々なものが用意されていた。



実際に銃を撃ってみると、撃った後の反動が凄く、とても映画やドラマのように簡単に撃てるものではなかった。

中でも印象に残っているのがライフル銃で、計4発撃ったのだがあまりの重さに2発目からライフル銃を持っているだけでとても辛かった。



3日目の夜は、オンワード ビーチ リゾートで BBQ を食べながらポリネシアンショーを楽しんだ。

ここでも、多くの料理が並べられてあり 2日間通して、美味しい料理を頂くことができた。

6. グアムから高知へ

最終日はグアムから高知へ帰る移動日で、朝 6 時にホテルを出発しグアム空港へ向かった。

朝が早かったため人は少なめで、スムーズに入国審査を終えることができた。

そして、9 時の DL172 便で関西空港へと出発した。

関西空港には 12 時前に到着して、12 時 20 分発のリムジンバスに乗り伊丹空港へと移動し、13 時 20 分に伊丹空港に到着した。

荷物を預けた後は、伊丹空港で昼食をとり高知行きの便まで時間があつたので、ゆっくりと過ごすことができた。

そして、17 時 55 分の ANA1615 便で高知へ向かった。

高知には予定よりも 10 分早い 18 時 20 分に到着。

全員が無事に帰ってくることができた。

7. おわりに

初めての海外で、楽しみもあり、不安もあった。

1 番心配していたホテルでは、私達の部屋にはトラブルはなかったが、他の社員の部屋では熱いお湯が出ないなど、何らかのトラブルがあったそうだ。

グアムの天気は、湿度が高く、どこへ行っても暑さを感じた。

この暑さは 5 月の高知県では感じることもできない暑さであった。

3 日目の食事会場へ行く途中で送迎バスにトラブルが起きて別の送迎バスに乗り換えることになった。

これも日本ではめったに体験できないことだと思う。

どれも日本では出来ない体験で、グアムに行くことができて本当に良かった。

日本旅行の加田さんには出発前から、旅行中、高知に帰るまで終始お世話になった。

これからはグアムだけでなく、より多くの国へ旅行してみたいと思った。

2016 グアム旅行記

調査補償課 柴田昭英



1. 行き先はグアム

5月19日から22日の4日間でグアムに社内旅行第1班として参加することとなった。移動に2日、滞在2日の行程だ。グアムと言えばビーチリゾートだろう。初グアムである。おじさんが行くようなところではないと思うが社員アンケートでの決定であり仕方が無い。

さて何をしようか？滞在2日目はフリーである。事前のオプションツアーの冊子で体験操縦を申し込んだが、コースがいくつかあり、どれにするか問われたのでやめた。これがおすすめと説明してもらわないとこっちでわかるはずがない。観光もいくつかあったが時間に迫られそうでバス。結局、何も申し込まずにホテルでのんびりステイ、周辺を散策、気が向けばちょっと遠出、ぐらいに決め込んだ。身体に無理せず無駄に時間を過ごす。短

期滞在だが贅沢な余暇にする。

高知龍馬空港→伊丹空港→関西国際空港→グアム国際空港。各所の喫煙所を結ぶ線が私の渡航経路となる。

グアム空港に到着しホテル行きのバスへ乗り込む。エンジン音が半端でない。夜なので当然景色など見えない。チェックインと合わせて部屋のカギとチラシなどが入った資料を各自受け取り、荷物をおいて近くのコンビニへ。ホテル内にもコンビニがあるがこの時間はしまっていた。

コンビニは少し歩いたところにあった。照明が薄暗くなんか怪しげだ。目的は缶ビールとつまみ。日本のビールもあったが、マンゴービールを買ってみた。値札を円にざっと変換し手頃なつまみを探す。カルパスのロングみたいなのとポテトチップスを購入。おにぎりもほしくなったがここには無い。ちなみにマンゴービールは苦みが少なくマンゴーの風味がそこそこ主張している。嫌いでは無い。

2. 滞在初日

朝食はホテルのレストランでいただく。チケット制でバイキング。ゲテモノ料理的な珍しい料理は無いかと見てみたが至って普通だった。昔はバイキングでつい取り過ぎてしまってたが、適量で食べ終えた。

午前中はバスでの観光。水を1本買ってバッグに装備。今知ったが、昨日のバス内で今日は靴で来るようにと説明があったらしい。バスの音で全く聞こえていなかった。そもそも日本からサンダルで来たので持っていない。

車窓から望むこの島の地形は、海岸沿いから一度駆け上がり、あとは緩い丘である。空

港も丘の上にあり、停泊している飛行機もよく見えた。

バスはハガニア湾や首都のあるハガニア市街が望める高台のアブガン砦、その裾地にあるスペイン総督邸跡や聖母マリア大聖堂のあるスペイン広場、日本占領時に米軍の奪還上陸があったアサンビーチ、太平洋戦争記念館へと立ち寄りながら南へ。

大聖堂ではマリア像の髪が伸びるとのことで「これは是非見ておかなくては」と1ドル払って拝観。実は拝観料では無く寄付金らしい。中は結構明るくスタンドグラスが見事だった。壁の中段に安置されたマリア像は60cm位か、近寄れないので望遠でも無いとよく見えない。

各所、一通りガイドの説明付きで周り、バスは折り返してホテルより北にある恋人岬へ。

ハートの南京錠が見事に聖地を彩っている。なんと突先の展望台のみ有料でチケットをもらい入場。

絶景だ。真下は海、遠くにタモンビーチとホテル群が望める。白い砂浜から沖のほうへ水際を越しても底の白さ、次にエメラルドグリーン、突然深い青色へと変わる。空に雲が無ければもっと鮮やかだろう。よくウミガメが見えるとのことで探したがいなかった。

昼食はリーフホテルのレストランでバイキング。GUAM 1 ビールとピザをメインに割とがつつり食べた。後で知ったが前回グアムへの社員旅行はこのホテルだったようだ。

午後は夕食まで自由行動。まずはビーチへ行ってみる。人が少ない。ビーチチェアもがら空き。どちらかというホテルサイドのプールの方に人気があるようだ。砂浜を横断し、膝まで海に入ってみる。そのまま50mぐらい進み、飽きたので隣のホテル前で揚がった。

揚がったのはいいもののきめの細かい白い砂が、ぬれた足とサンダルにべっとりと絡みつく。どうしようかと思いつつホテルの方へ近づくと、幸い水栓柱を発見、砂はミルクのように溶けて洗い流された。気が向けば明日もう一度来ようと思いつつ一旦、自分の部屋へ戻ることにする。とりあえずは海に入ったと言う事実が出来た。

夕食の集合までは部屋でくつろぐ。6階の中庭に面した部屋でプールやBBQサイトを見下ろすことが出来る。室内は禁煙だがベランダはOK。隣接しているJPストアを覗いたりもして時間を過ごす。

今夜はポリネシアンディナーショーとのことでバス移動。「おーい、どこまで行くの？」午前中の観光コースとほぼ同じところを走る。足摺海中公園みたいところで停まった。どうやら観光をするらしい。あとで日程表を見たらちゃんと海中展望塔見学付と書いてあった。長い栈橋を渡り海中展望塔の階段を降りる。ちょっと濁っているのか、夕刻で光りが弱いのか、あまり見通せなかったのが残念だ。それでも50cmほどの水中窓からは何種類かの小魚が見えた。

バスに戻りディナーショーへ向かうかと思えばどうやら時間調整しているらしい。突然、添乗員が明日スカイダイビングをする人の集金を始めた。「おいつ、こんなところで？」と結構不審に思ったが、自分には関係ない。

バスが走り出した。なんとビックリ、道路を渡っただけだった。道路を挟んで向かいの建物がディナーショーの場所だった。席に案内されメニューに写真付きで載っていた青い飲み物を注文、料理はここもバイキング。肉料理、魚介料理のほかいろんな料理が並んでいる。料理を取ろうと客も結構並んでいる。

そこに並ぶのは嫌なので、端のコーナーでエビの鉄板焼きと貝をとってきた。行列も少なくなっただけのほかの料理を取ってくる。ショーはまだ始まらない。どうやら文字どおり前半がディナーで後半にショーとなっているらしい。

ポリネシアンショーは TV で見たことがあるのでどんなものかはわかっていた。だがライブで見るのは全然違う。まず音に迫力がある。観客の拍手歓声も合わさって会場全体が大いに盛り上がった。適度に遠い席だったのでステージ全体が見渡せる。ショーの構成もよく、セットも本物だ。漏らさず観て帰ろうと思い最後のほうは立って観た。



3. 滞在 2 日目

滞在 2 日目、きのうと同じように朝食を済ませ、部屋でくつろぎながら封筒の資料を見つめる。昨夜も一応見てみたが部屋の照明が暗いのでさっぱり読めなかった。ミュージカードで無料となるシャトルバスの路線図を確認。

K マートへ行ってみる。

シャトルバスのドライバーにミュージカードを見せて乗車、次に乗り込んできた乗客は 4 ドル払っていた。もう大体の道筋は憶えた。バスを降り、入り口横の灰皿で一服。

入ってまずは店内を見渡す。天井を見渡すとその広さがよくわかる。衣類、食料品、酒、生活用品、おもちゃ、家電、カー用品ほか大抵ものはある。クーラーBOX や BBQ コンロが安いので買って帰りたいが無理。

気に入ったのは洗濯機だ。何種類かあったがスイッチがメタル製のダイヤルだった。最近ではプッシュボタンやタッチパネルが多いが、やはりダイヤル式のつまみはかっこいい。しかもメタル。

お土産を買おうか、十数種類あるスパム缶を 1 個ずつ買って帰ろうか、さすがにそれは重い。二女はアメリカンな毒々しいお菓子が大好きである。そんなお菓子をいくつか選んだ。東京にいる長女にはグアムに行くことを連絡していないのでお土産なし。

ホテルまで帰り、周辺のショップなどを見て歩く。アイスクリーム屋の前のベンチで一服していると、30 代前後か？黒人の男が横に座りライターを貸してくれとの身振り。その男と無言のまま並んでタバコをすった。なんか話しかけてきそうな雰囲気でも数回目が合ったが無視してやった。店員以外で接触したのはその男だけである。

JP ストアで同じ課的那須太郎君にあったので相談して同僚へのお土産をチョイス。既に一通りの試食を済ませたとのことで彼は仕事が早い。家族用にもいくつか買った。

夕食は BBQ。このホテルの中庭でやるのかと思ったらまたバスで移動。途中、ロータリーでバスが留まった。故障らしい。さあどう

するか？代車を呼んだので乗り換えるとのこと。こんなトラブルを嫌う人もいるかもしれないが自分は結構好きな方でワクワクしてくる。

テーブルに缶ビール、4人でひとつの網焼きコンロ、食材はセルフで好きなものを。しかしここも暗い、焼けたのか焦げたのかわからない。

ショーのはじめはバンドによる演奏のみ、ハワイアンは前から好きで知ってる曲もあった。やがてバンドがバックに下がりダンサーが登場する。演出は昨夜の方が好きだ。しかし周りは盛り上がっている。観客の中から数名ステージにあげられ腰振りの披露。なお一層盛り上がる。ブラックタイガーみたいなエビは結構食べた。2日間で20匹ぐらい食べたのではないだろうか。

4. 最終日

最終日、帰路だけである。高知から来た道のりを逆にたどる。もちろん喫煙所を経由して。各所で待ち時間を十分とってくれているので不安も無く無事に帰ることが出来た。

5. おわりに

グアムは日本から近く、時差も+1時間、気候も一年を通じて安定しており、日本語でもそこそこ大丈夫、と言うこともあって割と手頃な海外旅行先とのイメージがあります。子供連れでもいいし、マリンスポーツでもできたらなお一層楽しめるところです。

今回の旅行では、のんびりとして十分リフレッシュさせていただきました。関係者のご足労には大変感謝しております。ありがとうございました。

2016. 5. 25

グアムの旅

調査部調査補償課 山本 直也 2016/5/30

まえがき

行き先がグアムに決まり、準備を始めた私は、16年前に同じく社員旅行で行ったグアムを思い出していました。・・・しかし、記憶は薄れてきており、はっきりとは思い出せないのですが、ビーチで遊んだり楽しかったことを覚えています。今回もきっと楽しい旅になると思います。

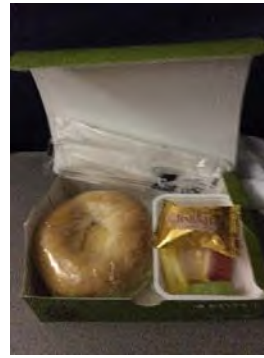
高知～グアム

高知からグアムへは、高知～伊丹～関空～グアムと、ほぼ一日がかりでの移動になりました。1日目、高知空港を出発したのは午前中でしたが、グアムのホテルにたどり着いたときはすでに夜中の12時を回っており、近くのコンビニで食料と飲み物を調達し、やっと部屋でくつろぐことができました。

最終日は早朝ホテルを出発し、また関空で4時間近くの膨大な待ち時間を費やし、高知に帰ってきたのは夕方でした。



ホテルの部屋からの眺め



行きの機内食（夕食）



帰りの飛行機にて

グアムの気候

肌をさすような日差しで暑く、まぶしいです。しかし、時々くもりの天気、雨も降ったりしたので、そんなに日焼けを気にすることはありませんでした。バスや飛行機の中は冷房が効いていて寒いぐらいでした。

グアムの観光

パセオ公園、スペイン広場、アサン上陸海岸、太平洋戦争博物館、アプガン岩、ラッテストーン公園、恋人岬等をバスで回り、観光しました。太平洋戦争博物館では、グアムを舞台に繰り広げられた太平洋戦争の歴史を学ぶコーナー等があり、興味深く見学しました。



スペイン広場の聖母マリア大聖堂



スペイン広場のチョコレートハウス



恋人岬からの風景



グアムで採れるフルーツ類



アサン上陸海岸



博物館前の旧日本軍の潜水艦

グアムでの食事

今回の旅行では、ほぼバイキング料理ばかりで、ディナーは2日連続で、ポリネシアンショーを見ながらのバーベキューでした。コンビニには日本のスナック菓子、カップ麺などもありましたが、若干割高感があります。グアムのビールもおいしかったです。



ポリネシアンショー



バーベキュー



グアムのビール

あとがき

仕事を離れ異国の情緒に触れることで、心身共にずいぶんリフレッシュすることができました。滞在期間は短かったですが、非日常の世界に身を置きいろいろなものを見て、感じて、楽しく過ごした4日間でした。

グアムでの自由時間

「シーウォーカー」で海中散歩をしました。驚くほどの数の魚に出会うことができました。ほかにはシュノーケルやカヤックで遊んだりしました。後の時間はウインドーショッピングと買い物に費やしました。



海中で記念撮影



街角の風景 1



街角の風景 2

2016年 グアム社員旅行

調査補償課 那須 太郎

■はじめに

今年のお行き先はグアム。5/19（木）～5/22（日）の4日間の旅である。

■5月19日（1日目）

およそ半日掛けてグアムに行く日程は、高知龍馬空港→伊丹空港→関西空港→グアム空港→ホテルの順路である。

10時30分に高知龍馬空港に集合し、伊丹空港へ。その後1時間程度のバス移動で、関西空港へ。関西空港で昼食を済ませ、16時45分頃に出国手続きを行い、19時頃に直行便にてグアムへ。到着予定は23時。（グアム時間）日本とグアムとの時差はおよそ+1時間であるため、約3時間の飛行である。無事にグアムに到着し、入国手続きも終えホテルに向かう。一息ついた後に、日本にもありそうなコンビニエンスストアに行ってみた。日本旅行の加田さんによると、水道水の飲料は控えた方が良くと言われていたのでミネラルウォーターを購入しホテルに帰る。

■5月20日（2日目）

起床後、部屋のベランダに出てみると、思ったより暑くはなかったが、ジメジメとした空気感が日本とは違い外国に来たのだと実感した。

本日の日程は、午前中は全員で観光。午後は自由行動。夕食はポリネシアンディナーショーである。

ホテルで朝食を済ませ、バスで観光地へと向かう。アプガン砦→ラッテストーン公園→

太平洋戦争博物館→恋人岬。の順に観光地を巡った。観光中は、気温が上昇し湿度も高く、バスから一歩外に出ると、汗が滲み出るような蒸し暑さだった。

午後からの自由行動は、逆バンジーにも挑戦してみた。160km/hの早さで地上から70mの高さまで一気に到達する。そこから回転しながら落ちたり、上がったりを繰り返す。普通に大笑ってしまうほど面白かった。70mの高さが思ったよりも高い。3日目のオプションツアーのスカイダイビングで、標高4,200mの高さからダイブするが、先が思いやられる、、、。



逆バンジーの様子

お土産を購入したり、街をぶらぶらしたりとグアムの町並みを堪能した。

夕食は、全員でポリネシアンディナーショーに行った。迫力があり、自分たち以外のお客さんも皆、大いに盛り上がっていた。



ポリネシアンショーの様子

■5月21日（3日目）

オプションツアーにてスカイダイビングに挑戦する。朝5時頃に起床し、現場へと向かう。着く早々に、同意書にサインし、レクチャーはDVD。結構あっさりとした説明のせいも、恐怖感が増してくる。小型飛行機に乗り込み、いざ出発。標高4,200mまで遊覧飛行をしながら上空からのグアムの景色を一望していたが、緊張と不安、恐怖で次第に景色を見る余裕もなくなり、悪いことばかり連想してしまう。

標高4,200mに到達し、順番にダイブすることになる。よくテレビで見るようなグズグズするといった感じは全く無く、インストラクターのタイミングでダイブしてしまう。自分の番がくると一気に緊張が高まる。飛行機からはすでに自分の体が飛び出している状態。そして、ダイブした。今までに感じたことのない風圧と高さだったが、パラシュートが開く前にはすでに笑顔が出るほど余裕が出来ていた。1分程経つとパラシュートが開き、5分程風を感じながらグアム全体を一望する。海や街並、グアムの景色は凄く綺麗であるとともに、空を飛んでいるといった開放感に満ち溢れていた。そして、無事着地。インストラクターが、遊覧飛行からダイビング中もずっと撮影してくれていたのも、みんなで上映会も行った。思い出に、DVDを購入した。今までに無い体験が出来てとても良かった。



4,200mからダイブした様子

ホテルに帰ってくると、まだ10時になっていない。ホテルで2時間程度休憩し、昼食にハンバーガー屋に行ってみた。ハンバーガー・ポテト・ドリンクは、どれもアメリカンサイズである。味もとてもジューシーで美味しかった。

午後からは買い物をし、夕食はBBQと昨日同様にポリネシアンショーで盛り上がった。この日は、右城社長の誕生日でもあり、サプライズで、みんなでお祝いをした。

■5月22日（4日目）

1日目と同様に移動だけの日程である。ホテル→グアム空港→関西空港→伊丹空港→高知龍馬空港といった順路で、朝の9時頃に出国手続きを済ませ、高知龍馬空港に着いたのは18時30分頃だった。

■おわりに

さすが観光地だけあって日本人観光客がたくさんいた。また、とりあえず蒸し暑い、と誰もが思ったであろう。実際に、グアムで過ごした期間というのは2日間だけだが、とても充実した時間を過ごすことが出来た。今まで挑戦した事のなかった、逆バンジーとスカイダイビング。そして今回で2度目の海外旅行はとてもいい経験であり、思い出として深く残るであろう。

親睦会、日本旅行の加田さん、皆の協力あつての社員旅行であり、お互いの絆をより一層深めることが出来たと感じている。

平成 28 年度 社員旅行レポート

～ GUAM グアム ～

調査部空間情報課 長崎 悟史

1. はじめに

平成 28 年 5 月 19 日～22 日（3 泊 4 日）の日程でグアムへの社員旅行に参加した。私にとって海外は、ハワイ、台湾に続く 3 度目である。これまでの 2 回も社員旅行であり、自身で計画して海外に行くことはまずない私にとっては、貴重な経験である。

2. 初日（グアムへの移動）

初日は、高知龍馬空港→伊丹空港→関西国際空港→グアムの順で移動し、ホテル到着時間は夜の 0 時頃であった。ホテルにチェックイン後、近くのコンビニでビールやつまみを購入し、少し飲んで初日は終了した。

3. 2 日目（名所観光）

2 日目は、グアムの観光名所巡りであった。朝食はホテルのバイキングで、いつものことながら食べ過ぎてしまい、パンパンのお腹をさすりながらバスへと乗り込んだ。グアムの歴史的な場所を次々と見て回り、存分に観光を楽しむことができた。



写真① ラッテストーン公園の巨大な石柱

昼食は、またもやバイキング。もう食べ過ぎまいると思っていたが、思いの外、焼きたての牛骨付

カルビがおいしく、結局食べ過ぎてしまった。

昼食後は、フリー行動であったため、おみやげを少し買った後、ホテルに戻り夕食までゆっくり過ごした。

夕食は、ポリネシアンショーを見ながら、またまたバイキングであった。昼には無かったカニが食べ放題であったが、さすがに控えめにし、適度にバイキングを楽しんだ。また、迫力のあるファイヤーダンスは非常に素晴らしかった。



写真② ファイヤーダンス

その後、ホテルに戻り次の日に備え、ゆっくり休んだ。

4. 3 日目（自由行動）

3 日目は、自由行動であったので、事前にオプションツアーの「シーウォーカー」を予約していた。シーウォーカーとは、宇宙服のヘルメットのようなものをかぶり、海底を歩いて水中の景色を楽しむものである。ヘルメットに空気が供給されるため呼吸も地上と同じようにでき、手軽にダイビング気分が味わうことができる。このツアーに 40 歳前後のおじさん 3 人で挑んだ。

当日朝、ホテルにジャンボタクシーが迎えにきた。もうすでに何人か乗っていて、ギュウギュウ詰めで移動し、やっとのことで現地に着いた。

海上に浮かぶ拠点にて、注意事項や水中での合図の方法等の説明を受け、1人1人はしごで海底へ下りることとなった。はしごで下りる時、首から下が水に浸かっている状態の時にヘルメットを被らされ、その後一気に海底へ潜っていった。海底といっても水深はあっても10mぐらいであったが、気圧による耳の痛みが予想以上に酷く、耳抜きは必須であった。幸いにもツバを飲み込むだけの耳抜きで痛みは解消され、海底に設置されていた手すりに捕まり、参加者全員が揃うまで待機した。全員が揃った後、インストラクターがおもむろに魚のエサをまき散らすと目の前に大量の魚が現れ、触れることもできた。



写真③ 大量の魚に囲まれる

その後、海底に設置された手すりに捕まりながら、インストラクター誘導のもと散歩コースを進んだ。ヘルメット内に空気があるため、手を離すと浮いてしまうと思われたが、ヘルメットが適度の重さのため、海底をフワフワ歩ける状態であった。水中はそこまで澄み渡っているわけではなかったが、魚を目の前で見ることができたことに感動を覚えた。



写真④ 海底散歩の様子

時間にすると30分ぐらいであったと思うが、

見たことのない多くの魚に囲まれて海底を散歩できたことは非常に良い経験ができた。



写真⑤ 海底で記念写真

その後、無料でカヤックに乗ることができたので、3人乗りのカヤックにおじさん3人で乗って楽しく時間を過ごした。

夕食は、まさかの2日連続のポリネシアンショーを見ながらのバーベキューであったが、前日とはまた違ったショーで大いに楽しむことができた。

5. 最終日（帰国）

最終日は、前日の飲み過ぎや寝不足がたたりに、体調は思わしくなかったが、昼には体調は回復し、伊丹空港での5時間待ちを乗り越え、無事に高知に帰ることができた。空港では娘2人のお迎えがあり、3泊4日の旅行で短い期間であったが少し懐かしく感じた。

6. 最後に

今回初めてのグアム旅行であったが、名所観光でグアムの歴史や文化を学ぶことができ、ポリネシアンショーやシーウォーカー等によりグアムを十分に満喫できた。また、普段接することの少ない社員との交流もできたことをうれしく思う。

以上

社内研修旅行レポート <グアム3泊4日の旅>

調査部空間情報課 細川公二

1. はじめに

2016年5月19日から5月22日の日程でグアム研修旅行が行われた。昨年の研修旅行は北海道で、とてもリラックスした旅であったが、今回は海外のために少し緊張感があった。私は過去幾度か海外旅行をしたことがあり、そのたびに大なり小なりトラブルを起こしている。恥ずかしいことばかりで書けないが、今回は団体での研修旅行であり、第一コンサルタントの一員として恥ずかしくない行動を取らなければならない。時間厳守(20分前に集合場所にいる)と、深酒はしないことを自分自身に命じることから今回の旅は始まった。

グアムは10年前にも旅行したことがあるが、強く印象に残った思い出はなかった。今回は楽しい思い出を残したいと想い、毎年のように海外旅行している友人に電話し、グアムの旅についてのアドバイスを求めた。「どんな日程になっているの?」と聞かれ、3日目に自由行動があると答えると、即座に「ビーチでのんびりだね」との答えがかえってきた。団体旅行は、自分勝手に行動しないことが一番大事と注意されてしまった。

2. 1日目(グアムへの移動)

研修旅行の初日はグアムへの移動のみ。10時30分に高知龍馬空港へ集合であった。すごくゆったりとした時間設定で嬉しかった。11時35分に出発し、伊丹空港、関西国際空港、グアムと予定通りに無事到着し

た。グアム到着時刻は夜の0時頃で、周りの景色もわからなかったが、空港の外に出るとものすごい湿気と暑さが体を包み、南の国にきた実感が湧いてきた。グアムへの移動に約半日をついやし体は疲れていたが、少しお腹もすいたのでホテルにチェックイン後、部屋に荷物を運び込み、近くのコンビニエンスストアで飲み物を買って、ホテルの隣にあるマクドナルドで小さいハンバーガーを1個買って部屋に戻った。関西国際空港で換金を終えていたので、買い物はスムーズにできた。

今回のグアムで行動基地となるのは、グアム・プラザ・ホテルでルームナンバー2618であった。期待はしていなかったが、スリッパ・カミソリはサービス対象外で、それよりもバスシャワーの水流が驚くほど弱いのに関口した。体を十分に洗うのに普段の3倍は時間がかかった。ルームメイトの徳橋君に無理をいって先にシャワーを使わせていただいたが、ずいぶんお待たせした。お風呂あがりに買い求めたビールを一気に飲みほして、初日を無事終了することができた。

3. 2日目(名所観光)

研修旅行2日目は、グアムの代表的な観光名所をバスで廻るため、9時にホテルを出発した。バスガイドがとても日本語が上手なので驚いた。母親が日本人とのことであつた。パセオ公園、太平洋戦争博物館、アプガン砦・ラッテストーン公園、恋人岬

の順に観光した。印象に残ったのは太平洋戦争博物館で見た大戦の傷跡である。私が当時ここにいたとすれば、やはり戦ったであろうか答えが出せない。

ラッテストーン公園のすぐそばにスペイン広場があり、ココナッツジュースが売られていた。バスガイドにすすめられ（値段を忘れてしまった）飲んでみた。以前にも飲んだことがあるが、微妙な味であった。バスガイドは「スイカの白い部分をジュースにした感じ」とみごとに表現した。飲み終えた椰子を渡すと、鉋で本体を割り、種子を覆っている部位へ醤油をかけてまた渡された。おそろおそろ食べると、イカの刺身のような味で、以外にもおいしいのに驚いた。

恋人岬は断崖絶壁の見晴らしの良いところで、タモン湾が一望できた。若い恋人達がたくさん訪れていて少し羨ましかった。

15 時前には予定されていた名所を廻り終わり、夕食まで自由時間となった。初日の移動の疲れが少し残っていたので、ホテルでリラックスタイムとした。

夕食は、ホテルから 30 分くらいの所にあるポリネシアンショーを見ながらのディナーであった。バイキング形式で肉料理から海鮮料理まで幅広く、軽くビールを飲みながらの食事はとてもおいしかった。とくに肉料理は、ほどほどの脂身で私にはちょうど良かった。前回の旅行でもポリネシアンショーはとても良かったので今回も楽しみにしていた。期待を裏切らないそのプロフェッショナルなショーに再び感動を覚えた。ショーの内容は文章で表現が困難であるが、この舞台を完成させるには大変な練習と忍耐力が必要と感じた。

4. 3 日目（自由行動）

研修旅行 3 日目は夕食までの時間を自由に使えた。結局、当日まで何をするか決めていなかったため、2 日目の名所観光で時間が足りずに行けなかった、ラッテストーン公園の隣にあるマリア大聖堂へ行くことに決めた。今回の旅行にはシャトルバスの無料乗車券がついていたので、時刻表と簡単な地図を持ちホテルを 10 時頃出発した。シャトルバスは聖堂までは運行されていなかったの少し歩くことになった。地図を片手に歩いていると、現地の若者達に日本語とも中国語ともわからない言葉でからかわれた。いつものことで腹も立たなかった。歩くこと 30 分、目的地である大聖堂に到着した。たいした距離ではなかったが、とにかく蒸し暑くひどく汗をかいた。持参したタオルで汗をぬぐい、聖堂の玄関口で小休止して、大きなドアを押し開いて中に入った。入口からすぐに木製の長イスが広い聖堂内いっぱい並べられていて（写真-1）、右側の長イスに白人でやせた老婆がひとりで座りこちらを見ていた。肌の色が透き通るように白く、目だけがなぜか赤い。その顔を見ていると左手がゆっくり動き小さな案内板を指さした。近づき確認すると、ハ



写真-1 聖堂内の様子

シングル語と中国語、日本語で拝観料 1 ドルと書かれていた。帽子を胸にあてながら 1 ドル紙幣を木製の賽銭箱のようなものに入れ、彼女に写真は OK かの意思表示をすると小さくうなずいてくれた。聖堂両脇の窓にはめられているステンドグラスがとても鮮やかで、差し込む日差しを色づかせていた。グアムっ子はこの大聖堂で結婚式を行うことが一つのステイタスとなっているようだ。

1 時間ほどかけてゆっくり拝観し聖堂をあとにした。蒸し暑い道のりを歩き出したところで 12 時をまわっていることに気づき、聖堂近くのハンバーガーショップで昼食を済ませた。帰り道にショッピングモールに立ち寄ったがほしいものが見つからなかった。

3 日目の夕食は、ポリネシアンショーを見ながらのバーベキューであった。ホテルからバスで 30 分くらい移動すると、他のホテルのプールサイドにバーベキュー用の設備が用意されていた。肉や野菜を各自で焼いて食べ、ポリネシアンショーを鑑賞して楽しい時間を過ごした。

5. 4 日目（帰国）

研修旅行最終日は帰国ための移動日であった。ホテルを早朝 6 時に出発し、空港に向かった。お土産は前日の夜にホテル内で購入していたので、空港では時間をもてあました。今回の旅行の入出国は待ち時間が短く、あまりストレスを感じなかったが、伊丹空港から高知龍馬空港へ向かう便が 5 時間待ちで疲れた。高知龍馬空港には予定より少し早く 18 時 30 頃に到着し、今回の研修旅行が無事終了した。

6. おわりに

今回は海外研修という貴重な経験をさせていただいた。旅を安全に楽しく演出して下さった親睦会の皆様はじめ、日本旅行の加田さん、班長の兵頭さんに感謝を申し上げます。

2016年度 社員旅行～グアム～

調査部空間情報課 徳橋 蓮

1. はじめに

今回の社員旅行の行き先は、シンガポール、タイ、ベトナム、台湾、バリ島等いくつか候補地があったが、投票でグアムに決まった。私はグアムに投票していただいただけに嬉しかった。

2. 高知からグアムへ

往路は高知龍馬空港 AM11:35 発の ANA1606 便で伊丹空港へ向かい、そこから空港バスで関西国際空港に行き、PM7:00 発デルタ航空 DL473 便でグアムに直行する日程であった。

関西国際空港での待ち時間が4時間もあったため、時間を潰すために空港内を散策していた。空港内にはアジア系の外国人が多く、特に中国・韓国の人が多かったように思えた。4時間の待ち時間は余りにも長く、大半を休憩スペースで潰すこととなった。

出発時刻になりデルタ航空 DL473 便に搭乗した。機内は冷房が効き過ぎて正直寒かった。機内食はベーグルサンドイッチで美味しかった。デルタ航空の飛行機に乗ったのは初めてで、男性キャビンアテンダントがいたことに驚いた。キャビンアテンダントは女性という、私の勝手なイメージであった。外国人男性で体格も大きく、重い荷物の持ち運びも軽快で、女性キャビンアテンダントには無い頼もしさがあった。飛行中は揺れも少なく快適なフライトで安心できた。

夜 11 時頃グアムに到着し、そのまま宿泊先のグアムプラザホテルへ向かった。やはり現地は湿度が高くジメジメしていた。その日は明日に備え寝ることにした。

3. グアム1日目

朝食はホテルのバイキングを利用した。外国に

来てもつい日本食を選んでしまい、ご飯と味噌汁を食べた。

最初の観光はアプガン砦(写真-1)であった。1671年にスペイン軍がチャモロ軍と戦うためにつくられた砦で、今は公園として整備されている。



写真-1 アプガン砦

ここからの景色(写真-2)は見晴らしが良く、夜景が綺麗との説明であった。また、ここからマリア大聖堂を望むこともできる。周辺にはゴミ等も落ちていなく、よく管理が行き届いていると感じた。



写真-2 アプガン砦からの眺め

次に行ったラッテストーン公園では、サンゴ石でできた巨大な石柱(写真-3)を見ることができた。この石柱はスペインに侵略されるまで、建物の土台として使われていたものだ。思ったほど背は高くないが、どれほど地中に埋まっているのか興味が沸いた。



写真-3 ラッテストーン公園の巨大な石柱

次のスペイン広場(写真-4)では、その敷地の広さに驚いた。グアムとスペインの歴史を学べる場所であった。広場周辺の露店でココナツジュースが売られていた。味は薄く不味くも美味しくもなかった。飲んだ後ココナツの中をそぎ取り、醤油につけて食べるとマグロの味がすると、ガイドさんから聞いていたので試してみると、イカの刺身の味に近く美味しかった。



写真-4 スペイン広場の様子

その後アサン海岸(写真-5)へ行った。1944年にグアムを日本軍から奪還するためにアメリカ軍が上陸した場所。広く静かな雰囲気でもこの場所で戦争が行われたとは考えられなかった。



写真-5 アサン海岸

太平洋戦争博物館(写真-6)の入り口には、大きな魚雷に似たものが置かれてあった。説明によると、これは日本軍が使用していた二人乗りの潜水艦で、かなりの数が製造されたが戦果は上げられなかったとのこと。回天という小型潜水艦は知っていたが、他の種類については知らなかった。

博物館の中では、当時の戦争の映画を上映していた。映画自体は良くできていたが、上映室の冷房が効き過ぎていたので寒かった。



写真-6 太平洋戦争博物館

次に恋人岬へ向かった。ここは観光客でいっぱいであった。太平洋戦争博物館等、歴史的な観光地にはあまり観光客がいなかったので、少し残念な気持ちになった。

恋人岬からの景色(写真-7)はとても綺麗で、白い砂浜と青い海が一望できる。ただ真下を覗くと断崖絶壁で、風で飛ばされたのか帽子がたくさん崖地に落ちていた。



写真-7 恋人岬からの眺め

恋人岬という名前だけあってカップルが多かった。恋人岬には、展望台近く(写真-8)にある柵に南京錠をかけると、一生一緒にいられるという言い伝えがある。高知の五台山の展望台にも南京

錠がたくさんかけられているのを思い出した。南京錠にはメッセージが書かれており、特に日本語が多かった。いかに日本人が訪れているかが分かる。



写真-8 恋人岬にある展望台

半日観光が終了したため、ルーフホテルで昼食(バイキング)をとった。料理はとても美味しく、人もたくさんいて賑わっていた。

夕食まで、自由時間であったので一度ホテルの方に戻った。せっかくの旅行で時間をもったいない気がしたが、疲労が溜まっていたので少し仮眠をとった。

夕食は、ポリネシアンショーを見ながらのバイキングであった。料理はとても美味しく、またそれ以上にショーの迫力がすごかった。特にファイヤーダンス(写真-9)は素晴らしかった。



写真-9 ファイヤーダンス

その後ホテルに戻り、寝る前にホテル内にあるストアで「モンスターエナジー」というエナジードリンクを飲んだのが失敗であった。全く寝られなかった。原因は、海外のエナジードリンクに含まれているカフェインが、日本と違い大量に含まれていたからである。なかなか寝つけないので仕

方なくテレビを見ていると「プライベートライアン」が放送されていた。子供の頃に何十回も見た映画だ。私は映画が好きで見入ってしまったが、全て英語音声なので何を言っているか分からなかった。気がつく途中で寝てしまっていた。

4. グアム2日目

朝は少しゆっくり過ごした。私はオプションツアーを申し込んでいなかったため完全自由行動であった。昨日時間がなく、中を見学できなかったマリア大聖堂へ向かった。

マリア大聖堂の外観(写真-10)は、まっ白で綺麗であった。



写真-10 マリア大聖堂

教会の中には管理している女性が二人居た。中に入ると大きな祭壇が目に入った。言葉にできない美しさであった。

教会外壁に施工してあるステンドグラス(写真-11)はとても綺麗であった。

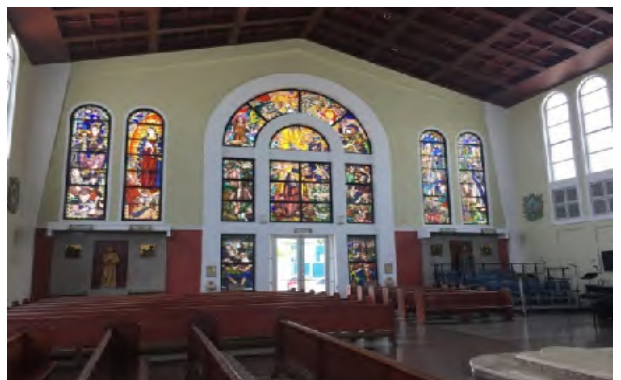


写真-11 マリア大聖堂のステンドグラス

祭壇のマリア様(写真-12)の髪が伸びるという話をガイドさんから聞いていた。日本人形と同じ現象だ。聞いた時は少し気味悪く感じたが、実物

を見ると何故か気味が悪いとは思わなかった。

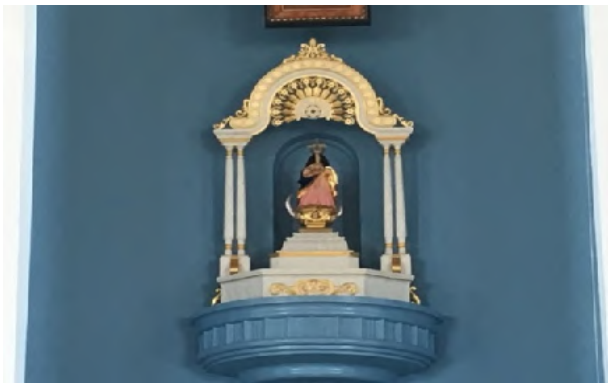


写真-12 祭壇にあるマリア様

私は教会を訪れるのは初めてで、とても良い経験になった。ちなみにマリア大聖堂の中を見学するには、1ドルの寄付金を支払わなければならない。

マリア大聖堂を見学した後、お土産を購入するために周回バスに乗り、グアム・プレミア・アウトレットへ向かった。中にはスポーツ店や靴屋等たくさんのお店があり、友人へのお土産として目にとまったものがあったが、あまりにも長蛇の列で購入を諦めた。中国の方だと思うが大量に買い物をしていた。いわゆる爆買いだ。

昼は近くにあったサブウェイで昼食をとった。店員は日本語が喋れなかったので、なんとかジェスチャーで注文すると、日本語のメニューを差し出してくれた。

グアム・プレミア・アウトレットには、日本にもあるフォーエバー21 という女性に人気の洋服店があった。そこへ行くため広い駐車場を横断していると、必ずといっていいほど車のドライバーが道を譲ってくれた。旅行中そういった場面が何度かあったが、すべてのドライバーが道を譲ってくれた。グアムには観光業と政府関係とアメリカ軍関係の職業しかないというガイドさんが言っていた。観光客を大事にしているのだろうか。どんな理由があるか分からないが、少しグアムに対してのイメージが変わった。

グアム最後の夕食はオンワード ビーチ リゾートホテルのBBQであった。BBQが始まるとみんなが肉を焼くので一斉に煙りが立ち上がり、肝心の料理が見えない状況になった。BBQを楽しんでいるうちにポリネシアンショー(写真-13)が始まった。昨日見たポリネシアンショーとは違った演出がありとても楽しめた。

の料理が見えない状況になった。BBQを楽しんでいるうちにポリネシアンショー(写真-13)が始まった。昨日見たポリネシアンショーとは違った演出がありとても楽しめた。



写真-13 ポリネシアンショー

食事の途中で突然バースデーコールが始まり、一日早い右城社長66歳の誕生日をお祝いした。このサプライズは日本旅行の加田さんの計らいであった。加田さんは添乗員として最後まで日程案内をしていただいた。また、気さくに話しかけてくれるフランクな方で、加田さんにはとても感謝している。

グアム最後の夜はとてもたのしい夜であった。

5. グアムから高知へ

帰国日の朝は5時頃に起き、そのままグアム空港に行き搭乗手続きを終え、DL172便で関西国際空港へ向かった。到着後、伊丹空港へ移動した。伊丹空港では長い待ち時間があり、時間を潰すため空港内を散策した。空港外へ出てみたが、観光スポットを見つけられず残念であった。

そして伊丹空港から高知へ向かうANA1615便に搭乗し高知へ帰った。ANA1615便は小型機で室内空間が少し狭かったが、両翼にプロペラがついていたので窓からプロペラを間近で見ることができた。フライトは揺れが少なく安心できた。無事高知に帰ることができ、本当に良かった。

6. 最後に

今回のグアム旅行では、グアムの歴史や文化等を体験することができて良かった。

一つ残念に思えたことは、英語が喋れなかったことだ。国内旅行では不自由なく会話できるため安心感があるが、海外ではそういった安心感がもてない。次回海外へ行く機会があれば、なんとなくでも良いのでコミュニケーションがとれるよう英語を学んでおきたいと思った。

そして何より、現地で事件や事故がなく旅行を楽しめたことと、今回の旅行に参加させていただいたこと事に感謝する。

社員旅行

幡多支店
那須 滉樹

・はじめに

5月19日～22日にかけて、3泊4日のグアム旅行に参加しました。

・1日目

移動のみの一日でした。まず、高知空港から伊丹空港に行き、着後バスに乗り関西空港へ。関西空港から直行便でグアムへ。到着後はコンビニで少し買い物をして休みました。

・2日目

午前中バスに乗りパセオ公園、太平洋戦争博物館、アプガン砦、ラッテストーン公園、恋人岬を観光したあと、レストランでバイキングの昼食をとり、午後からはホテル周辺を散策し、夜はフィッシュアイポリネシアンディナーショー。ショーの迫りに驚きました。



恋人岬からグアムの街と海

・3日目

オプションツアーで朝からスカイダイビング。説明を受け飛行機に乗り込み4200m上空へ向かいました。高度が上がるにつれて恐怖心も大きくなっていきましたが、いざ飛んでみるととても気持

ちよかったです。

スカイダイビングが午前中で終わったので、昼はお土産を買いに行き、夜はBBQパーティー。煙が凄かったです、とてもおいしく、ビールが進みました。

BBQパーティーの後は街に行き少し遊んで11時頃就寝。



スカイダイビング

・4日目

朝から飛行機に乗り日本へ帰国。夕方高知へ着きました。

・おわりに

今回の旅行は海外ということもあり、初日と最終日は移動のみでしたが、とても充実した旅行になり、リフレッシュできました。これからまた仕事を頑張っていきます。